

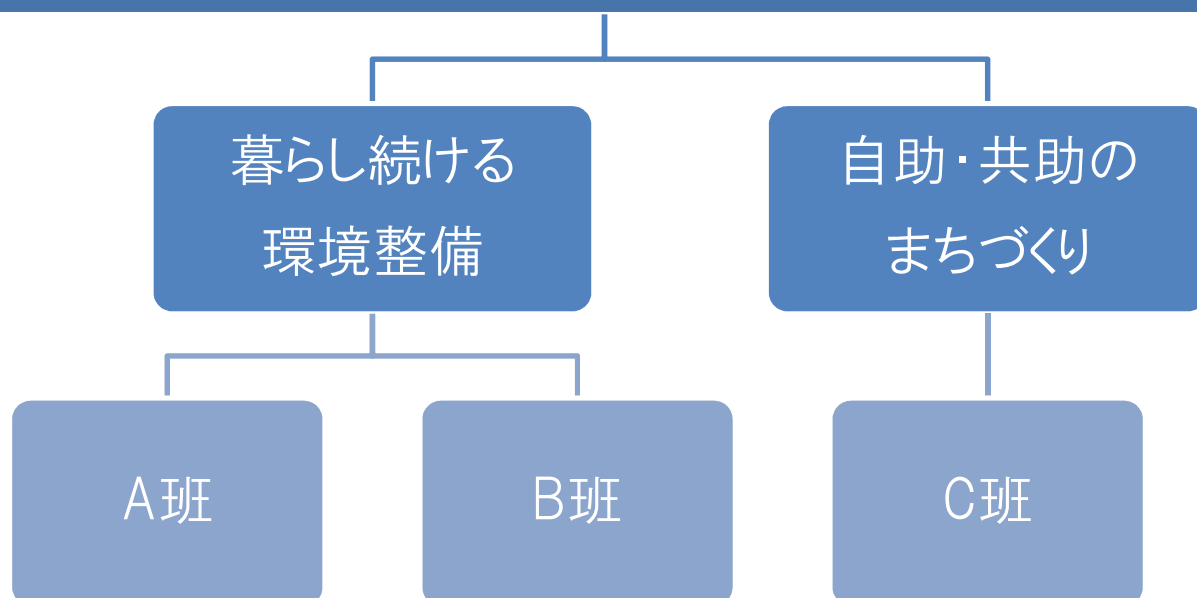


平成 29 年 10 月 21 日(土)・11 月 18 日(土)
(平成 29 年度第 5・6 回佐倉市行政評価懇話会)

第1回市民ワークショップ

平成29年10月21日（土）実施

高齢者が住み慣れた地域で
安心して暮らすために



A 班 「暮らし続ける環境整備

歴史と福祉のまち佐倉」

個別意見（班員の声）

（○良いところ ×課題 △その他 ◎対応策 ★注目ポイント）

施設

- 図書館の活用。期日前投票増設。
- × ★地域課題に対応できる社会福祉施策を多くしてほしい。自宅に戻れない、自宅との二重生活。
- △ 社会福祉施設との連携。今までいざ〜というとき不安でしたが、サービス付き住宅があるのを知って安心。でも費用の面では不安。

防災

- 防災にドローンを導入したらどうか。
- × 強盗、ひったくり。サギ対策、金融がらみの詐欺も多い。民泊への不安。テロ対策。

まちづくり、コミュニティ

- ★多様な活動団体。まちづくりの組織が各地区にある。地域社会への貢献意欲がある人が多い。
- × 独居老人の連絡手段が少ない。シルバー層の地域貢献への活用に不安。
市民活動、情報交流もっと知らせてほしい。
- △ 集まる場所（お茶のある場所）が必要。自治会活動のあり方。
引きこもりをしないように声かけが必要。ヘルパーさん等働いている人の異動がはげしい。

交通手段

× ★買い物、食事等日常生活の不安。移動・買物弱者重視＋双方向へ。

交通手段の充実とは拠点の充実と一本化を。佐倉駅（京成）にエレベーター、エスカレーター等を整備して周辺を楽しめる場所に（買物等）。バスの時刻表が見にくいのももう少しわかりやすくしてほしい。

△ ★公共交通の充実、交通網の整備が必要。

医療・健康

× 高齢者になると介護等費用が不安。高齢者がけがをした後のリハビリ専門の病院がない。

★医療・介護に関する情報がほしい。医療保険と介護保険の違いを説明してほしい。介護施設の種類を知りたい。高齢者の健康な方の地域包括支援の申し込み方のお知らせが多くない。

包括支援センターへの多くの市民の参加が重要だ。

生きがいや予防重視に。★当事者の意見を反映する医療や予防を。

医療、防災、輸送大型ヘリポート。医療、交通とウイルス他

△ 健康・福祉と農の一本化した施策

介護施設を今から申し込まないと将来入居できない？ 施設に働いている人の環境が厳しく改善が必要。施設の食事が不安。

全体

○ のんびり暮らせる自然環境、歴史、文化

× 生活、仕事と支える人（高齢者の側、家族の側）のバランス。高齢者の対象もより細やかに。

インフラ整備、老朽化と予算が課題である。IOT 機器とプライバシー、利点と欠点もある。

★マイナス面を補う→魅力度アップ（次世代の定住化につなげる）

発表内容

各々が出した意見を「施設」、「防災」、「まちづくり・コミュニティ」、「交通手段」及び「医療・健康」の5つに分類し、これらに分類できないものを「全体」としてまとめた。

「施設」に関しては、図書館をよく活用する、という意見があったほか、地域課題に対応できる社会福祉施設が望まれているのではないかという意見があった。

防犯を含む「防災」に関しては、テロや詐欺等の問題への対応も重要になってきているという意見や、NPOやNGOのうち不活性組織の排除についての意見、防犯活動にドローンを活用してはどうかという意見があった。

「交通」に関しては、移動・買物弱者への対応として、公共交通網の充実が重要という意見がある一方、支援を必要とする人を支援する側の拠点も充実させるべきという意見があった。

「医療・健康」に関しては、地域包括ケアシステムに対する市民の認知度が低いため、理解促進を図るべきという意見や、医療保険や介護保険制度の仕組みがよく分からず、いざ利用する際に困ったという意見があった。当事者の意見は重要であり、参考にすべきである。また、健康は重要であるが、多少のお金も必要であるため、耕作放棄地を活用して農業を行ってもらうなど、健康づくりと農業の推進を一体として進められないかという意見もあった。

「まちづくり・コミュニティ」に関しては、自治会活動について、不参加等の問題があることや、従来型ではない課題対応型の自治会が求められているという意見、また、社会貢献や地域活動をしたい人は多いので、これらの人をうまく引き出す方法を検討すべきという意見があった。その他、普通に暮らしていくためには、集う場所、お茶を飲める場所、ぶらっと立ち寄れる場所が必要という意見もあった。

「全体」としては、予算を含め、インフラの老朽化への対応が必要という意見や、IOT機器を活用する一方プライバシーへの対応が必要という意見、また、のんびり暮らせる自然や歴史・文化を売りにした環境整備が必要という意見や、高齢者対策は必要であるが高齢者は幅広く、きめ細やかな対応が必要といった意見、その他、マイナス面を埋め、魅力度向上を図るための次の何らかの対策が必要という意見があった。

<了>



B 班 「暮らし続ける環境整備 行政と高齢者の共有社会づくり！」

個別意見（班員の声）

（○良いところ ×課題 △その他 ◎対応策 ★注目ポイント）

施設

○ 居住環境良。

★市の公民館、図書館（職員含む）、市民体育館の設備が充実している。

× 公民館のトイレを洋式化に改善してほしい。公園にトイレがない、少ない。

本庁市役所の案内整備。ミレニアムセンターの活用は不十分に思われる。

△ 民間トイレのトイレ利用可の表示を。

健康

○ 高額医療費の補助は続けてほしい（12,000 円以上）。

× 高齢者なのか判断がつかない人が多い（自覚として）。

介護に参加しない者の引出し方法

△ 介護・福祉施設の使いやすさ（予約とりづらい）

市内病院に高齢者医療の特色を…住みたい老後の町に。公民館で機能低下予防の講座。
佐倉が日本に誇れる高齢者対策 2～3 事業を強力に実施する。

認知症の不明の取扱い

⇒【こうしてはどうか？】

◎ 予防が大切

◎ ★予算の使い方！敬老会の 1,000 円配布はなくてもよい。はり・きゅうマッサージも不要では。人間ドック補助は良い。

自治会

- 自治会・町会の活躍が進みつつある。
- × 住民の身近な連絡（高齢者対策）が少し遅い。
各自治会運営が弱く行政事項が十分届かない。
- △ 支援センターでの相談に行くことまでが相談対象となっている
⇒【こうしてはどうか？】
 - ◎ ★市役所からの情報を自治会が生かすように伝える
 - ◎ 住民の協力を。ご近所のもりあげ方

交通

- 道路の整備状況。地区によって郊外でも公共交通、バス等有。
- × 安心して生活できる街づくり。市道の街路樹整備・清掃。側溝のふたの安全性・整備。
★地区の公共交通、バス等有（料金、ダイヤ数）
- △ 歩行路の高齢者配慮が少ない。
JR・京成佐倉駅間の無料バス（市役所経由）はどうか。佐倉警察前辺りの道路混雑対策は？

広報

- 佐倉市広報が良くできている
- × 広報誌に高齢ニュース、連絡欄を鮮明に表示してほしい。
佐倉は住みやすいと思うが、高齢者は他市と比べて多いか？
- △ 広報誌は充実しているが市民を登場させてほしい

情報

- × 各機関との連携緊密不足
⇒【こうしてはどうか？】
 - ◎ もっと皆で助けあうための情報を（高齢者が増えている！情報を）

佐倉ならではの

- △ 佐倉 IC 近くに道の駅がほしい。
老々介護の状態。老後の不安、特に夫。

佐倉に住む誇り（特に高齢者）が少ないのでは？

災害

× ★防災無線よく聞こえない。防災時の佐倉市のマップを作る。

△ 災害備え（水・トイレ・電気）

空き家

△ 空き家が増えている

ゴミ

△ 資源ゴミの検討。ゴミ出しがはっきりしない。

買い物

△ 今後の高齢化に伴う買い物等

その他

○ 職員の接遇、好感度が高い。行政は市民のために努力している。

⇒【こうしてはどうか？】

◎ 行政と高齢者の共有社会づくりが必要である。

発表内容

施設、健康、自治会、交通という大きな分類でくくり、その他、広報、情報、ゴミ、買い物の小分類に意見が出た。

施設については、公民館やトイレ、体育館を始め、充実しており「良い」という意見があった。問題は、ミレニアムセンターの活用が十分ではないこと、市役所本庁舎の案内が十分整備されていないという意見があった。前年度のワークショップで、公共施設のトイレについて洋式化等高齢者が利用しやすい方向で改善してほしいと話したが、中央公民館など洋式化され、非常によかった。

敬老会で配布される一人 1,000 円分の商品券、はり・きゅう・マッサージ券については高齢者にとってもやめてよい制度であるとの意見が出された。そこに使われる予算をもっと高齢者にとって真に有用な事業に使ってほしい。

自治会については、市役所からの情報が活かされていないのではないかという意見があった。災害については、防災無線があまり聞こえないという意見もあった。

その他、市職員の説明など対応がよいと感じる。

<了>



C班 「自助・共助」

高齢者が安心して生活するには」

個別意見（班員の声）

（○良いところ ×課題 △その他 ◎対応策 ★注目ポイント）

施設・交流等

○ 南部支援センターなど良い事業をするところがある。おいしい給食。施設が新しく生まれ変わってきている。

高齢者同士のコミュニケーションが取れている

× 地区の生かし方。コミュニティカフェなどが無い。年代を超えた交流が必要。

身体障がい者施設が無い。近くのスーパーに車椅子等が少ない。

古い図書館は使いづらい。近くに図書館があるが中に入るとカビ臭い。

△ 公園入口にハザードマップがある。マンション出入口の花壇の整理。

⇒【こうしてはどうか？】

◎ ★使いやすい施設の改善（利用者の意見を取り入れる）

◎ ★包括支援センターによる「高齢者の移動」制度の利用

◎ ★コミュニティセンターの利用を宣伝。ネスレのように施設アンバサダー制度を作る。幼稚園とイベントをタイアップして周知。

◎ ★活動事業や団体を継続的に案内。助け合い会など地域活動のPR、文書の投函。

◎ 市民⇄市役所⇄市民

地域活動組織等

○ 民生委員に相談しやすい。

近所、小ブロック毎のつきあいが良い。毎日の挨拶（声のかけあい）がある。

自立している高齢者が多い。独居老人への声かけ（自助）

★まち協が頑張っている。自治会への支援もある。自治会に様々な趣味の会がある。生きがいになる。自治会を問わず、たくさんの助け合いの会がある。いきいきサロン、駅前の清掃を定期的に行うなど。

子育て支援を拡充してほしい。地域でも受け入れてほしい。

× 自治会の存在の周知が弱く、地域の活動への誘い方が見えない。民生委員の候補者もない。

近所の助け合い。となりに住んでいる人を知らない。隣家のペットの鳴き声などご近所トラブルもある。

インフルエンザなど疾病予防は重要。志津地区は入院できる病院が少ない。

介護タクシー（市営は？）、シルバー人材センターのタクシーは2日前予約が必要。

△ 自治会の恩恵を感じていないので加入率が低下しているのでは？個人情報の管理。

買物の支援、いつどこへ車がくるのかのPRが足りない。デマンド交通は使いづらい。

いきいきサロンには、本当にやりたいことはあまりない。何がやりたいのかを広くきいてみる必要がある。

支援がなくてもやりたいことはある（例：ゴミ拾い）

⇒【こうしてはどうか？】

◎ ★笑顔で立ち話！！食事会は高齢者にとってありがたい。ご近所での食事会。

◎ 近所付き合いの件に対しては民生委員や自治会の活用が必要ではないか。

◎ ★地域差を感じるので地区代表者の交流をしていただきたい。各地区の地区代表者や民生委員の集まりを行い、地区毎の問題や課題を話し合う場がほしい。

地域資源等

○ 武家屋敷。地産地消。

× 小江戸づくり。公園の利用の仕方。

△ チューリップ畑。花火。

⇒【こうしてはどうか？】

◎ 次世代のメリットを考える

◎ 子どもの送り迎え、学童の充実

◎ ハザードマップ⇒市への要望（自治会経由）

防犯・防災等

○ 火災体験。防災ラジオ。

× ★空き巣など防犯上問題あり。道路が狭い。水没する地区がある。

⇒【こうしてはどうか？】

- ◎ 夜間パトロールの充実
- ◎ 防犯ガラス
- ◎ 防犯活動のグループを地域で増やす

発表内容

障がい者に対する支援、障がい者施設がまだまだ不十分なのが現状ではないか。行政は「自分たちはやっている」と考えるのではなく、他市と比較するなどし、「欠けているところはないか」という意識で、PDCAを回していただきたい。

また、介護タクシーはあるが、二日前でないと予約が取れずに使いづらい。高齢者の移動に関し、地域包括支援センターが支援してはどうか。検討を進めている地域もあるので、全市で横展開してほしい。

観光は、チューリップ畑などの目玉を観光資源としてもっと活用すべきだ。

防犯については、まだまだ空き巣や泥棒が頻繁に起こる地区があったり、道路が狭かったりと課題が多い。防災ラジオの支給や火災体験の実施も知らなかった。地域によってはパトカーの数、警察官の数が少ないように感じることもある。

自助で夜間パトロールの充実が必要である。まだまだ元気なお年寄りは大勢いる。その人たちをシルバーとして、防犯活動のグループをどんどん増やし、活動していただきたい。そのためには、次世代のメリットを考え、子供とお年寄りの交流の場を設けていただきたい。それでもやはり自分たちだけではできかねるところがあるため、公助としてどういうことをすべきかということについて、考えていただきたい。

また、地域支え合いリストを見て、こんなにたくさんの施設があると知り驚いた。2010年には30団体程度しかなかったものが今は100団体程度に増えている。これだけいい施設があるにもかかわらず活用できていないことが問題である。

PRが足りないという意見もあった。資料も作って置いておくだけではなく、一戸一戸に配ってPRしていただきたい。また、幼稚園のイベントとタイアップして、こういう施設があるということをPRすれば効果があるのではないか。このように、PRの方法をもっと工夫することが必要である。

地域の交流については、食事会をやってはどうか。会ったときに挨拶もしない人が多いので、挨拶の奨励も行ってはどうか。そうすることで笑顔が生まれれば会話が生まれる。基本的なことが実はできていない。学校では道徳の時間が減っているとも聞いているが、もっと必要ではないか。また、南部支援センターが非常に良い事業をやっていると聞いているので、地域包括支援センター同士がもっと横の交流をし、いいところを伸ばしていただきたい。

民生委員の集まりにおいても同様に、それぞれの問題を出し合って、お互いのいいところを伸ばす、あるいは足りないところを補っていただきたい。

全般に、佐倉市にせっかくいいものがあるにもかかわらず、その情報が市民に伝わっておらず、活用できていないことは全般に共通した課題である。ただ施設を作ってその利用を促すだけではなく、利用者の意見をどんどん採り入れ、その施設をよりよく使うにはどうすべきかを考えていただきたい。

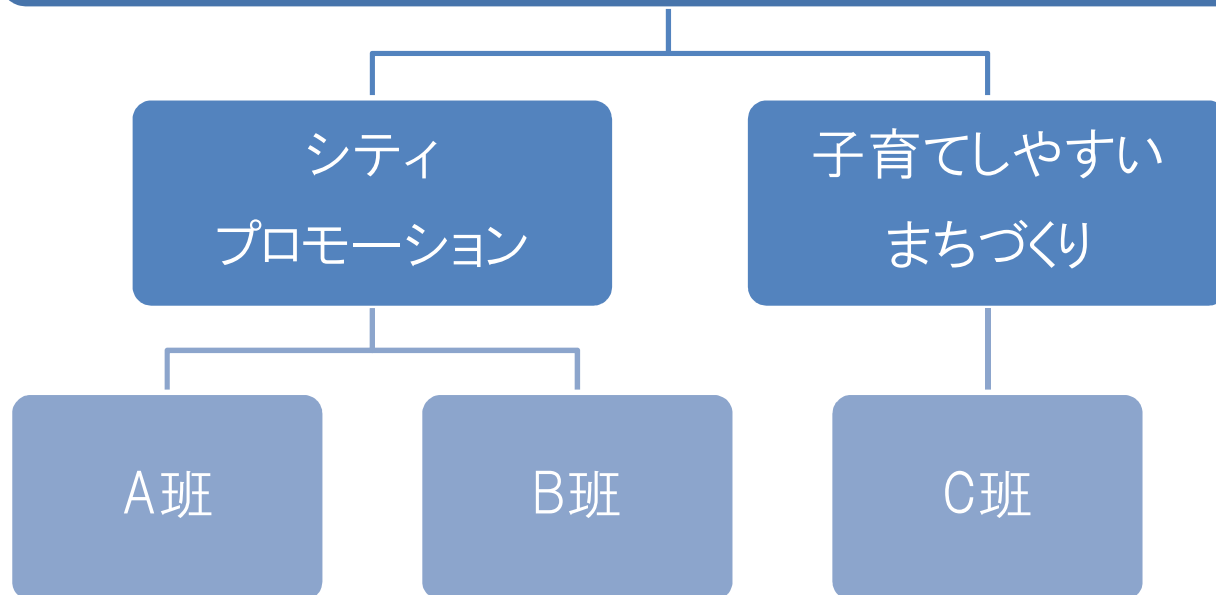
＜了＞



第2回市民ワークショップ

平成29年11月18日（土）実施

佐倉の魅力発信



A 班 「歴史・スポーツ・観光、 佐倉の魅力！」

個別意見（班員の声）

（○良いところ ×課題 △その他 ◎対応策 ★注目ポイント）

スポーツ

- スポーツの活動がしやすい。市民カレッジ、生涯大学が良い。
- × ★市内出身のプロ野球選手との交流。高校野球予選会場。

歴史

- 都市と自然のバランス。蔵。歴史あり・城下町。JR 佐倉駅・待合の家紋。
- × ★城跡巡りガイドマップ

観光

- 観光施設共通割引。市内観光案内地図。
- △ オランダにフォーカスした取組み。駅、街・店舗。名水ポイント。市ホームページ。イベント後。観光協会アピール。
- × モノサク写真展開催。古民家。観光自転車料金。★市内事業者の活用。

地域

- 市内の町が良く掃除されている。市内観光地のボランティアがいる。
- △ 高齢者へのアプローチ
- × 小径、外灯。車社会としての対策。JR・京成とのコラボ。

発信

△ SNS・アプリによる発信。移住者の職業紹介。

単年度で評価せず2～3年で評価を見てみたらどうか

× テレビ。イベント。集客施設、道の駅等。

その他

△ 実際の体験施設。物産品。ふれあい農園の活用。

× 市民からの苦情等の窓口が分からない。

★特別の目玉なし。B級グルメ創造。

農業と市民。空農地活用。

★印旛沼の資源活用。ふるさと広場の屋形船の串、廃船が放棄されたままである。

発表内容

歴史・スポーツ・観光は佐倉の魅力の三本柱である。

歴史に関しては、灯籠が非常に風情があり、城下町の雰囲気醸し出している。観光拠点は充実しており、観光はしやすいがいくつか課題がある。佐倉には100名城の佐倉城、続100名城の本佐倉城のほか非常に城が多いが、一般の方に知られていない。佐倉の城を網羅した地図を作り、1日城巡りをする機会を作ってもよいのではないか。また、印旛沼は波が静かで、非常に大きな水の資源である。都市近郊にないカヌー教室を作れば、東京から子供連れの家族に来てもらえるのではないか。

スポーツに関しては、スポーツの活動がしやすく、いろいろな拠点がある。また、ドラフト会議で3年連続、佐倉ゆかりの選手が指名されている。今の子育て世代は、自分の子供がプロスポーツ選手になることに関心が高いので、若手のプロ野球選手との交流ができる場を提供できないか。また、長嶋茂雄記念岩名球場でも高校野球の予選試合を開催していただきたい。

観光に関しては、鉄道会社も利用してやっていただきたい。物井と佐倉の間のカーブが「モノサク」として鉄道写真の聖地なので、写真展を佐倉駅で開催してはどうか。また、東京から来る方が成田に行く際に佐倉で途中下車してもらえるよう、佐倉と成田の間で自由に乗降できる切符をJRと京成のコラボでつukれないか。

市内事業者の活用についてはネーミングライツのほか、例えば観光自転車に貼ったシールで起業を広告する代わりに、電動自転車をその企業に寄附してもらったり、地元でお土産を買えば10%割引になったりする仕組みができないか。

B級グルメに関しては、特産の山芋を使った誰でも食べられるメニューを開発し、佐倉のB級グルメにしてはどうか。佐倉井の知名度が高くない。また、のぼりを立てるなどPRに工夫が必要。

<了>



B班 「シティプロモーション策」

個別意見（班員の声）

（○良いところ ×課題 △その他 ◎対応策 ★注目ポイント）

○ 安全、自然災害

一戸建て。物価。

成田との距離、東京都の距離。世界にも東京にも近い

気候、自然。都会度、田舎度。景観。故郷。

農業。西洋野菜（津田仙）を活かす

スポーツする環境。岩名ブランド。

歴史・文化。武家の町の拡大化。豊かな自然と歴史文化遺産。歴博の活用（連携企画）。地域の伝統、行事活用。

花火大会。チューリップ。

小児医療の充実

人が財産（みんな良い人？）

市民のためと行政はこまめに努力をしている。

× 働く場所がない。シャッター通り

★若者の呼び込み。若者の意見。若者文化づくり（店舗、趣味、スポーツ等）。若者らの定住のための職場づくり。若者目線ではやっぱり不便。

沼の活用

耕作放棄地。農協や商工会議所等を活用する。ボランティア活用。

長嶋球場もっと↑

観光の見直しをする。観光供託金収集と配当制度で市民関心度 UP！大きな植物園づくりなどイベントの企業・商品とのタイアップ。

連続的な企画や、大きなイベントで大きく引っ張る（小イベントを包み込む）。小さな企画は不要？

歴史・文化はパンチなし。佐倉城の復元と地域の魅力化。草ぶえの丘の向上。

ホテル、宿泊施設がない（京成近くホテル）。有名料亭、レストラン、おいしい店誘致。

お土産、八街のピーナッツのようなブランドづくり。銘菓の発売（新製品）

何もない（魅力）に等しい町からスタートを（他市比）。

JR、京成の佐倉駅前の魅力化。駅前へのメインモニュメント設置など。市内交通（バス）

IT 遅れ、公民館の予約など

何でもやると財政負担心配。補助金・助成金内容を検討する。

★住民気質が古い体質。重点の置き方。反対好

PR 下手、市民・団体の SNS 等少ない。感じたことを直接発信。

市民主体の施策少ないか。夢を育てる政策。

定住人口の維持を考える。

★目指すターゲットを明確に。伝えるべき魅力が曖昧か。どんな街に？

★人口減少対策から質的变化へ。数の多少中心でなく、満足度充実を目標とする。

△ さくら（佐倉）弁当の開発

市内タクシー、バスの特色化

年長者優遇。世代で受け継ぐ。介護。

市営住宅を考える

⇒【こうしてはどうか？】

◎ ★ほどほど（自然（気候、住環境）、文化（歴史）、生活（中））地域特性の具体的展開

◎ ★既存インフラの年齢層別具体的展開

◎ ★人の満足度の向上増進

発表内容

A 班の方は交流人口の方に重きが置かれていたように思うが、私たちの班は最終的に定住人口を増やすにはどうすればよいかという観点から意見を取りまとめた。

佐倉には「これ」という秀でたものはなく、「ほどほど」なところがいいところではないか。例えば、都会感・田舎感がほどほどであるなど。また、安心できる、一戸建てが持てる、

といった、ごく一般的な幸せに繋がるようないいところがあるが、これをどう PR していくかが大切である。

また、佐倉市内においても、古くから佐倉に住んでいる地域の方と、新しく佐倉に入ってきた地域の方とでは考えに違いがあるが、前者の意見の方が強く市政に反映されているように感じているので、後者の意見にも耳を傾けていただきたい。

次に、「既存インフラの年齢層別具体的展開」とあるが、誰をターゲットとして呼び込むかということが重要であり、若い人をどれだけ引き付けるかが重要だ。

東京との距離の問題があり、生計を立てることをベースにすると都会に出ざるを得ず、それを超えて若い人にここに住んでもらうにはどうすべきかという議論が必要だ。都内で「佐倉出身」と言うと評価されるが、では佐倉に戻るかということと「不便だ」と言って戻ってこない。若い人が将来どうしたら戻ってくるかを考えることが重要だ。佐倉より酒々井のほうがいいという若者が出てきたのはなぜか。ユーカリが丘のように駅前に小さい子供を預かるといふ拠点を作るとか、自宅で仕事をしてトータルでお金を稼ぐような新しい生き方を提案しなければ、若者を呼び込むのは難しいと思う。

一方、団塊の世代は、これから、高齢になっていく両親のそばでどうやって生活をしていくかが喫緊の課題となると思うが、これらの層をターゲットとしながら、どのように魅力を発信していくのが重要である。

その際、基本的に抑えておく必要があるのは、佐倉に住んでいる方が、どれだけ、ここに住んでいることに対し、満足しているのかという点である。人の満足度を向上することを念頭に置きつつ、定点観測をしながら、進めていく必要がある。

<了>



C 班 「子育てしやすいまちづくり」

個別意見（班員の声）

（○良いところ ×課題 △その他 ◎対応策 ★注目ポイント）

支援

- ★医療費の負担が少なくてすむ。時間外の治療施設。
- ★子育て支援の充実。手当。病児、病後児。小児初期急病診療所（夜子供が熱を出した時助かった）。
- 南部保健センター
- × 税金。補助金。
- × ★教育費。育児休暇。ファミサポの提供会員を増やす工夫。子育てコンシェルジュの認知度を高める。

佐倉学

- 佐倉学
- × 「西の長崎、東の佐倉」をもっとアピール、蘭学（学問）。佐倉学＋受験への環境、佐倉学検定の小中学校生向け。

教育

- 育児パパ・イクメン、校外学習
- × ★子育て世代の目標は教育の充実。教育パパ、教育ママになれる町。親の教育＝子の受容性を生む。
- × ★教育面での支援。子育て、心の教育。英才教育の充実。どの子も大学へ、そんな町。
- × PTA への支援を！

給食

- 給食がおいしい。学校給食の試食会があると良い（一般向け）。
- × 学校によっては給食がまずくなった？

施設

- 自然環境、草ぶえの丘、サンセットヒルズ等
- × サンセットヒルズ、千代田ふれあいセンター等の人のサービスの向上を。

将来

- ★近居・同居。二世帯で暮らしやすい。地域のお祭り。
- × ★まち協の活用。孫育て。通勤しやすい。勤め先の確保。

学童

- △ 学童保育施設の更なる充実
- × ★ただ預けるだけの保育は？ 遊びばかりではなく、学力の充実を！

情報

- × 各機関との連携不足

その他

- ガイドブック。シティプロモーション。
- △ 駐車場。待機児童。

発表内容

今子育て中の方にとって子育てをしやすい環境を作るにはどうすればよいか。また、子育てを終えた後、自身の介助の不安を払拭しながら、孫育てがしやすい環境を作るにはどうすればよいか。以上2点が論点となった。

個別テーマとしては以下のとおり。

給食に関しては、佐倉市は給食が美味しいことで有名であるが、栄養士が変わると美味しくなくなる場合もある。

学童に関しては、ただ預かるだけではなく、学力の向上など、「預けたい」と思えるよう充実していけるとよい。

佐倉学に関しては、10代から学び始めて、地域を愛し、地域に誇りを持って育っていくという一方、これを学び、「佐倉はいい」と共鳴できるのは、比較的年齢層が高い層ではないか。佐倉学を打ち出しても転入してくるのは高齢者が中心となり、定住促進のターゲットへ子育てしやすい環境をピーアールすることにはならず、的がずれている。

教育に関しては、子育て世代は子供の将来に食欲で、教育に力を入れれば入れるほど、よりよい子供の未来を築きたいという親が自ずと集まる地域となる。そうすることにより、スポーツなども含め、様々な人材が地域から輩出されることとなる。

支援に関しては、児童手当や時間外・病児保育は評価できるので、補助金、教育費、ファミリーサポートセンターの一層の拡充が期待される。

施設に関しては、草ぶえの丘やサンセットヒルズなど所詮「公共施設」のレベルという印象である。問題はないが、利用者も期待をしない。禁止事項ばかりではなく、子供が喜んで、また行きたいと思える施設づくりができれば、一度他の地域に出ていった人も、また戻ってくるのではないか。

将来に関しては、勤め先の確保が必要だ。どれだけ教育を充実させても、佐倉に住むには近隣の勤め先が限られており、結局は東京や他県に有能な人材を取られてしまう。また、二世帯居住の方は増えているので、その支援の情報を伝わりやすくする必要がある。

地域との繋がりに関しては、お祭りなどは世代関係なく触れ合うきっかけとなる。対象を一地域に限定せず、より大きな地域を対象として支援するのは有意義であり、まちづくり協議会への支援はその一つである。

<了>



平成29年度懇話会意見付帯の評価シート一覧

番号	基本目標	具体的施策	ヒアリング対象	意見付帯評価シート配布回
1	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(1)高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる体制整備	高齢者福祉課	第5回(第1回市民WS)①
2	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(3)地域のまちづくり・コミュニティ活動の環境整備	自治人権推進課	第5回(第1回市民WS)②
3	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(7)災害に備えた体制整備・支援	危機管理室	第5回(第1回市民WS)④
4	2:佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	(1)シティプロモーションの推進	企画政策課	第6回(第2回市民WS)①-(1)
5	2:佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	(3)歴史文化遺産を活かした来訪者の増加	文化課	第6回(第2回市民WS)①-(3)
6	2:佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	(4)都市と農村の交流促進	農政課	第6回(第2回市民WS)①-(4)
7	3:若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えます	(1)若い世代の経済的安定と結婚支援	自治人権推進課	第6回(第2回市民WS)②-(1)
8	3:若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えます	(4)安心して子育てできる地域づくり	子育て支援課	第6回(第2回市民WS)②-(3)
9	3:若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えます	(5)地域の特色を活かした教育の推進	指導課	第6回(第2回市民WS)②-(4)
10	1:産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	(2)既存企業の新たな展開の促進	産業振興課	第7回①
11	1:産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	(3)起業の促進	産業振興課	第7回②
12	1:産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	(4)市内雇用拡大・就業支援	産業振興課	第7回③
13	1:産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	(6)農業経営の安定強化	農政課	第7回④
14	2:佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	(5)スポーツを活用した活性化の推進	生涯スポーツ課	第7回⑤
15	2:佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	(7)地域毎の課題に応じた住宅施策の実施	建築住宅課	第7回⑥
16	2:佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	(8)良好な景観の地域づくりの推進	都市計画課	第7回⑦
17	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(2)「健康のまち佐倉」の推進	健康増進課	第7回⑧
18	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(4)市民の学習・文化活動の支援推進	社会教育課	第7回⑨
19	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(6)鉄道駅周辺の都市機能に関する検討	都市計画課	第7回⑩
20	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(8)農業の多面的機能の維持保全活動の推進	農政課	第7回⑪
21	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(9)市南部地域対策の推進	企画政策課	第7回⑫

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理シートの達成率の考え方について【資料3】

29.12.27行政評価懇話会説明資料

◆現在の考え方(数値は仮定値)

1 指標が累計の場合

指標名	初期値	目標値	実績(達成状況)				
			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
企業誘致数	-	5社(累計)	1社(累計1)	1社(累計2)	1社(累計3)	1社(累計4)	1社(累計5)
		達成率	20%	40%	60%	80%	100%

達成率 : 実績(累計) / 目標値 × 100

【行政評価懇話会の指摘】

・目標値が110万人、実績が120万人であれば、達成率は実績値/目標値×100として109%にすべきではな

2 指標が累積でない場合

指標名	初期値 (26年度)	目標値	実績(達成状況)				
			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
観光入込客数	100万人	110万人	90万人	100万人	102万人	120万人	
		達成率	初期値を下回った	0%	20%	200%	

達成率 : (実績 - 初期値) / (目標値 - 初期値) × 100

- ・平成30年度の達成率が200%となっているのは、10%(10万人)増加の目標に対して、20%(20万人)増加したことによる。
- ・理由としては、「実績/初期値×100%」にした場合、初期値から好転しなくても、ある程度の達成率が計算されてしまう。
- ※平成28年度では、100万人/110万人×100と計算すると、初期値と同じであるにも関わらず達成率90.9%になってしまう。
- ・なお、初期値を下回った場合は、率ではなく「初期値を下回った」と表記している。

◆検討・事務局案

- ・ご指摘のとおり、初期値が100万人、目標値が110万人のところ、120万人の実績の達成率を200%と表示することはわかりづらい。
- ・しかし、一律で「実績/初期値×100」で計算した場合、観光入込客数の達成率で当てはめると、27年度は初期値を下回ったにも関わらず81.8%、28年度は初期値と同じであるにも関わらず90.9%の達成率になってしまう。



○達成率は、現在どおり (実績 - 初期値) / (目標値 - 初期値) × 100 で計算する。ただし、初期値を下回った場合は「初期値を下回った」、目標値を上回った場合は「目標達成」と表記して誤解を招かないように修正したい。

平成29年度 市民ワークショップ対象外

施策評価シート

	基本目標	具体的施策
1	1:産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	(2)既存企業の新たな展開の促進
2	1:産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	(3)起業の促進
3	1:産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	(4)市内雇用拡大・就業支援
4	1:産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	(6)農業経営の安定強化
5	2:佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	(5)スポーツを活用した活性化の推進
6	2:佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	(7)地域毎の課題に応じた住宅施策の実施
7	2:佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	(8)良好な農観の地域づくりの推進
8	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(2)「健康のまち佐倉」の推進
9	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(4)市民の学習・文化活動の支援推進
10	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(6)鉄道駅周辺の都市機能に関する検討
11	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(8)農業の多面的機能の維持保全活動の推進
12	4:将来にわたって住み続けたいと思える「まち」をつくります	(9)市南部地域対策の推進

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	1：産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります		施策名	(3)起業の促進		評価年度	平成28年度
施策開始 のきっかけ	地域経済の活性化や地元雇用の創出を図るためには、企業誘致だけでなく、個人等の起業に向けた支援による事業者の増加も必要であるため(なお、佐倉市産業振興条例及び産業振興ビジョンに起業支援や商店街活性化について明記)。	実施計画画額(千円)	28年度	29年度	30年度	31年度	16,852
施策の内容	地域経済の活性化や地元雇用の創出を図るためには、企業誘致だけでなく、個人等の起業に向けた支援による事業者の増加も必要であるため(なお、佐倉市産業振興条例及び産業振興ビジョンに起業支援や商店街活性化について明記)。						
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況			
	佐倉起業塾(入門編・実践編)を経て新たに起業した人数	1人(平成26年度)	5人以上 (5年間の累計)	27年度	28年度	29年度	30年度
KPI設定の 考え方・根拠	過去の傾向を踏まえ、年1人以上を目標として設定。 達成率：(実績値(累計) / 目標値(累計)) × 100	1人(平成26年度)	5人以上 (5年間の累計)	4人(累計4人)	9人(累計13人)		
				80%	260%	%	%
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況			
	「商店街空き店舗等出店促進補助金」を活用して起業した件数	—	5件以上 (5年間の累計)	27年度	28年度	29年度	30年度
KPI設定の 考え方・根拠	過去の傾向を踏まえ、年1件以上を目標として設定。 達成率：(実績値(累計) / 目標値(累計)) × 100	—	5件以上 (5年間の累計)	1件(累計1件)	2件(累計3件)		
				20%	60%	%	%
	取組状況(Do)			評価(Check)		改善(Action)	
具体的事業	①起業者に対する経営アドバイスや講座の開催、融資等の支援	千葉県産業振興センター「よろず支援拠点」と共催で「サテライト相談所」(月1回)を設置(相談数46件) ・平成26年3月に佐倉商工会議所に設置した創業専門相談窓口「MEBuCさくら」で相談対応を実施(相談数129件) ※「MEBuC(メブク)」はMeeting-spot of Entrepreneurs for Business Consultation(創業者のビジネス相談のための集い場所)の略。 ・佐倉起業塾(入門編・実践編)を年2回開催(受講者数99名、起業者数9名) ※実践編は佐倉商工会議所が実施。 ・起業講演会を年1回開催(参加者数87名) ・佐倉市中小企業資金融資制度の創業支援資金による融資を実施(3者)		起業塾(入門編・実践編)の受講者のうち9名が起業を行い、また、佐倉市中小企業資金融資制度の創業支援資金を3者に融資する等、一定の効果があつたものと考えられる。 ・上記の改善に当たって、佐倉商工会議所及び千葉県産業振興センター等と効果的かつ効率的な実施方法等について協議を行う。			

	②「商店街空き店舗等出店促進補助金」の活用による起業支援	空き店舗等における起業を促進するため、平成27年8月に「商店街空き店舗等出店促進補助金」制度を創設。 事業を実施する中で、ニーズが高く、より空き店舗活用が見込まれたことから、補助対象業種の拡充（学習塾やカルチャースクール等の追加）を行った（施行：H28年4月1日）。 ホームページやチラシによる情報発信を実施し、3者（うち1者が起業家）に対して補助金助成を実施した。	3者（うち2者が起業家）の助成を行い、一定のニーズや効果があったものと考えられる。	・本補助金の認知度が必ずしも高いとはいえないため、引き続き情報発信を行う。 ・助成を受けた者等に対するヒアリング等を行い、必要に応じて補助制度改正の検討を行う。 ・空き店舗や空き家の情報を一元的に把握するため、千葉県宅地建物取引業協会との連携等について検討を行う。
	③インキュベーション施設の設置に係る検討	インキュベーション施設の設置等の検討を行うため、地方創生加速化交付金を活用し「起業支援・企業誘致ファンストップ推進事業に係る基礎調査」を実施した。	調査の実施により、起業家及び起業志望者から一定の利用ニーズを把握することができた。	調査結果を踏まえ、先導事例の把握を行うとともに、必要性や費用対効果等について検討を行う。
懇話会意見等	・この施策は総合戦略の中で最も重要な施策の一つと考えている。シャッター通り、空き店舗対策は、これまでのやり方ではいけない。大型ショッピングセンター・コンビニ・通販企業が進出する一方で、町の商店街は後継ぎがなく、店がなくなっていく。かといって放置するとますます町が寂れてしまう。 ・商店街で生き残るのは物販ではなく例えば飲食店のようなサービス業である。交流人口を喚やして、その人たちに商店街を歩いてもらうことが必要である。これは産業振興課だけの問題ではなく、市全体の課題である。街並みの修景や道路の舗装により、歴史的な雰囲気づくりを行うなど、観光客を呼び寄せるという点から取り組んでほしい。京成方面から私立美術館までの通りは左倉の玄関であり、店舗対策が必要だ。常設営業が難しいならば、朝市など一定期間に営業するような工夫が必要である。 ・会議所の会員数は伸びていない。脱会の8割は廃業によるものであり、主に事業者が多い。廃業する企業の多くは従業員20名以下、事業者であれば5名以下の小規模事業者である。このような状況の中、起業塾の運営、空き店舗補助金は非常に効果的であり、事業者の数を増やす上で役立っている。市内企業の交流や、ケーブルテレビで起業家について取り上げ、市民にも紹介する事業など、創業・起業支援の取組みは今後も続けてもらいたい。			
懇話会意見等を踏まえた今後について				

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	1：産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	施策名	(4)市内雇用拡大・就業支援				評価年度	
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	取りまとめ推進課	産業振興課
施策開始 のきっかけ	- 市内の定住人口の維持、拡大のためには、市内における雇用機会の確保が必要であるという観点から、平成23年度に企業誘致助成金の「地元雇用促進奨励金」の額、期間を拡充。 - また、雇用環境のミスマッチ等により就業が困難と言われている、若年者、中高年及び子育て中の女性等を対象とする就職セミナーを開催。	実施計画額(千円)	5,364	5,364	5,364	5,364	関連課	
施策の内容	- 市民の身近な就業機会を確保するため、市内企業の市内雇用拡大を支援します。 - 市民の市内及び近隣市への就職を促し、転出を抑制していくために、就業に関する情報提供や説明会、相談会、講座などを実施します。							
KPI (事業評価指標)	企業誘致助成制度の活用による 市内雇用人数	初期値	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
			24人(累計24人)	1人(累計25人)				
KPI設定の 考え方・根拠	誘致指定企業が「地元雇用促進奨励金」を活用して地元雇用した人数の合計。年10人以上を目標として設定。 達成率：(実績値(累計) / 目標値(累計)) × 100	目標値	48%	50%	%	%	%	%
KPI (事業評価指標)	子育てお母さんの再就職支援セミナー 参加者数	初期値	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
			10人(累計10人)	10人(累計20人)				
KPI設定の 考え方・根拠	県の就業支援機関との共催によるセミナー参加者数を集計。H26年度開催時の参加者数を参考に、5年間のうち3回開催の延べ人数を目標として設定。 達成率：(実績値(累計) / 目標値(累計)) × 100	目標値	25%	50%	%	%	%	%
KPI (事業評価指標)	中高年対象就業セミナー 参加者数	初期値	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
			未開催	14人(累計14人)				
KPI設定の 考え方・根拠	県の就業支援機関との共催によるセミナー参加者数を参考に、5年間のうち3回開催の延べ人数を目標として設定。 達成率：(実績値(累計) / 目標値(累計)) × 100	目標値	0%	28%	%	%	%	%
具体的事業	①市内企業に対する市内雇用拡大に向けた支援 ②佐倉市を中心とした求人情報提供、職業相談、紹介	取組状況(Do)		評価(Check)		改善(Action)		
		雇用機会の創出を図るため、市内在住者の雇用を行った既存企業に対して、佐倉市企業誘致助成金「地元雇用促進奨励金」を助成した(1社1人、累計2社25人)。		平成28年度、1社1人の雇用が創出され、一定の効果があったものと考えられる。		今後も引き続き「地元雇用促進奨励金」による支援を行うとともに、佐倉市商工会議所等との連携や助成制度の情報発信に努める。		
具体的事業	①市内企業に対する市内雇用拡大に向けた支援 ②佐倉市を中心とした求人情報提供、職業相談、紹介	取組状況(Do)		評価(Check)		改善(Action)		
		成田公共職業安定所との共同運営により、佐倉市地域職業相談室(ミレニアムセンター佐倉内)で、就職に関する情報提供(佐倉市周辺を中心とした求人情報冊子の配発)、職業相談、紹介等を実施(利用者数1.2万人、就職件数945件)。		平成28年度、1社1人の雇用が創出され、一定の効果があったものと考えられる。		今後も引き続き、求人情報提供等を実施する。		

	③子育てお母さんの再就職支援(講座等)	・県の就業支援機関「ジョブサポートセンター」との共催により、「子育てお母さんの再就職支援セミナー」を開催(年1回、参加者10人)。子育てお母さんの参加を促進するため無料託児所を設置。 ・「ジョブサポートセンター」や近隣市主催セミナー(働きたい女性と企業を結ぶ交流会等)に再就職支援に係るチラシを配架。	・参加者数が定員20名に満たなかったため、情報発信が十分でなかったものと考えられる。 ・他方、参加者に行ったアンケート調査によると「参加者になった」と回答した者が100%と満足度は高くなっている。	・情報発信の手法等の検討を行う。 ・アンケート調査結果はおおむね好評であり、今後引き続き、県と連携しての開催を要望する。
	④中高年等の就業支援(講座等)	・県の就業支援機関「ジョブサポートセンター」との共催により、「中高年の再就職支援セミナー」を開催(年1回、参加者14人)。 ・セブンイレブン・ジャパンの共催により「シニア従業員のお仕事説明会」を開催(年3回、参加者24人)。 ・「ジョブサポートセンター」や近隣市主催セミナー(中高年齢者対象の合同企業説明会等)に就業支援に係るチラシを配架。	・中高年向けセミナーは、参加者数が定員30名に満たなかったため、情報発信が十分でなかったものと考えられる。 ・他方、参加者に行ったアンケート調査によると「参加者になった」と回答した者が100%と満足度は高くなっている。	・平成25年度以降開催できていなかった中高年向けセミナーの開催ができ、近隣市からの参加もあったことから、広く就業支援になったと考える。
懇話会意見等	・就業支援セミナー受講者がその後就職したかどうかを把握するよう努めてほしい。 ・セブンイレブンとの高齢者の積極的雇用の協力体制は定期的で評価できる。他のコンビニへの水平展開や、一層の協力体制の工夫に努められたい。			
懇話会意見等を踏まえた今後について				

	取組状況 (Do)	評価 (Check)	改善 (Action)
具体的事業	①農地利用集積による経営規模拡大の支援	農地利用集積による経営規模の拡大により耕作放棄の発生予防を図るため、新規で農地利用集積(貸借)を行った農業者(20件、30ha)に対し、農地賃借料等に係る経費の助成(※)を行った。 (※)佐倉市耕作放棄地予防対策事業補助金、認定農業者又は新規就農者を対象として、農地賃借料、機械作業費等に係る経費の1/3(上限1.5万円/10a)を補助するもの。	今後も引き続き、農地利用集積による経営規模拡大に向けた支援を行う。
	②生産・流通の効率化・低コスト化の支援	・水田経営における作業の効率化、低コスト化等を図るため、生産調整(生食用米以外の飼料用米等)を作付を達成した農業者(4件)に対し、農業機械等の導入に係る経費の助成(※)を行った。 (※)佐倉市水田農業補進改革事業補助金(担い手強化事業)、農業機械等(田植え機、コンバイン、乾燥機等)の導入に係る経費の1/3以内(100万円を限度)を補助するもの。 ・畑作経営における作業の効率化、低コスト化等を図るため、認定農業者(11件)に対し、農業用機械の導入等に係る経費の助成(※)を行った。 (※)佐倉市農産園芸総合対策事業補助金(生産体制強化事業)、施設修繕(ビニールハウスの張替等)、農業用機械(防除機、自動カーテン、通風暖房機等)の導入に係る経費の1/3以内(100万円限度)を補助するもの。	今後も引き続き、効率化等に向けた支援を行う。 なお、予算上の制約があるため、助成希望農業者数により助成額が減少することから、制度の周知徹底を図り、計画的に支援を行う。
	③水田フル活用の支援(飼料用米やWCSの推進)	水田経営における米の生産調整を図るため、飼料用米、WCS(稲発酵粗飼料用稲)の作付けを行い生産調整を達成した農業者(89件、飼料用米125.9ha・WCS51.6ha)に対し、作付け面積に応じて助成(※)を行った。 (※)佐倉市水田農業補進改革事業補助金(水田作物推進事業)、飼料用米等の作付面積10アール当たり1万5千円を補助するもの。	今後も引き続き、水田フル活用にに向けた支援を行う。 なお、主食用米の販売価格が上昇すると、飼料用米等の作付けを行う農業者が減少する可能性があることから、飼料用米等の作付けを行うメリットなどの説明を行う。
	④耕畜連携による収益性向上の支援	飼料用米等の作付けを行っている農家の栽培状況の現地調査を行うとともに、当該農家と畜産業者の飼料供給に係るマッチングを行うなど農家と畜産業者の取引実施による収益性向上に係る支援を行った。	農家と畜産業者のマッチングを行うことにより、飼料用米等について、農家にとっては販売(需要)先の確保、畜産業者にとっては購入(供給)先の確保により収益性の向上を図ることができ、一定の効果があつたものと考えられる。
懇話会意見等	・KPIの達成率は非常に高く、価格低下など環境の変化に対し、市内農家が積極的に対応策に取り組んでいる結果として評価できる。 ・農業は自然環境や経済的要因のほか、生産調整など国の方針転換の影響も受けやすく、国の補助がないと採算がなかなか取れないのは現状かと思うが、飼料用米やWCSへの取組みなど交付金など最大限活用しながらも農家の収入を維持できるように、市として積極的に支援を継続してほしい。 ・高齢化や農業で儲からず、後継者が育たずに高齢化が進むため、耕作放棄地が増加している。機械の購入補助や新規就農者の受入れにより、市内の耕作放棄地が解消している部分もあるので、より一層の対策と支援を検討してほしい。		
	懇話会意見等を踏まえた今後について		

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	2: 佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	施策名	(5)スポーツを活用した 活性化の推進		評価年度	
			平成28年度	平成29年度	取りまとめ推進課	平成28年度 生涯スポーツ課
施策開始 のきっかけ	35回を誇る佐倉朝日健康マラソンは、北海道から沖縄、また、海外からも出場する大会に育っている。さらに交流人口を増加させるため、魅力あるスポーツイベントを開催し、市の魅力を高めていく必要があるため。	実施計画額(千円)	2,773	5,549	関連課	-
施策の内容	・長嶋茂雄少年野球教室など近年のスポーツ振興の取組みにより、「スポーツのまち佐倉」のイメージが定着しつつあることから、岩名運動公園等を活用したスポーツに関するイベント等を充実し、佐倉市の知名度を高めるとともに、スポーツを通じたまちの活性化を図ります。					
KPI (事業評価指標)	長嶋茂雄少年野球教室の観覧数	指標名	初期値	目標値	達成状況	
			1,000人 (平成26年度)	平成26年度比 1割増加	27年度	28年度
				達成率	29年度	30年度
					620人	1200人
					初期値を下回った	200%
KPI設定の 考え方・根拠	観覧者は市外からも来場するため、交流人口増加への寄与度を測る指標として、観覧数を設定しました。 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100					
KPI (事業評価指標)	佐倉朝日健康マラソン大会申込者数	指標名	初期値	目標値	達成状況	
			12,697人 (平成26年度)	13,000人(維持)	27年度	28年度
				達成率	29年度	30年度
					13012人	13109人
					104%	136%
KPI設定の 考え方・根拠	定員が設定されているため、現状維持を目標値に設定。 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100					
KPI (事業評価指標)	フラインドサッカーの試合が行える環境整備	指標名	初期値	目標値	達成状況	
			-	コート1面 (平成27年度)	27年度	28年度
				達成率	29年度	30年度
					1面	1面
					100%	100%
KPI設定の 考え方・根拠	フラインドサッカーフェンス及びびゴールを購入し、試合ができる環境整備を目標値に設定。 達成率：(実績値 / 目標値) × 100					
KPI (事業評価指標)	フラインドサッカーに係るイベントへの参加者数	指標名	初期値	目標値	達成状況	
			-	100人/年 (累計400人)	27年度	28年度
				達成率	29年度	30年度
					未実施	192人(累計192人)
					-	48%
KPI設定の 考え方・根拠	日本フラインドサッカー協会による体験教室の1回開催人数を設定。 達成率(累計)：(実績値(累計) / 目標値(累計)) × 100					
具体的事業	①岩名運動公園等を活用したイベント等の開催	取組状況 (Do)		評価 (Check)		改善 (Action)
		①関東大学サッカーリーグ戦を開催(6月、9月) ②フラインドサッカー体験学習を開催(7月) ③第3回長嶋茂雄少年野球教室(11月) ④第36回佐倉朝日健康マラソン大会を開催 予定(3月)		フラインドサッカーチームの練習会場として岩名球技場が使用され、また、関東大学サッカーを観戦する人が岩名に訪れるなど新たな交流人口が生まれたと考える。		①各イベント情報をホームページや広報誌で掲載しているが、認知度が低いと感じられるので情報発信方法を検討する。

懇話会意見等	・ブライランドサッカーを岩名運動競技場で行っていることは認知度が低い。パリンピックを目的に事前キャンプ地を招致したり、公式戦を開催するなど、障害福祉課と連携しながら、競技と拠点の情報発信を推進してほしい。 ・長嶋茂雄記念岩名球場は、改修によりキャパシティや仕様がどの程度の規模になったのか、市民にうまく伝わっていない。高校野球の予選やプロ野球のゲーム招致など期待が高まっているので、情報を発信したうえで、能力と知名度を活かした活用方法をはかってほしい。また、長嶋茂雄氏への注目度は依然高く、ご本人も佐倉に目を向けてくれているので、佐倉を野球の聖地にするなど、長嶋氏を活かした情報発信を検討してもらいたい。 ・朝日健康マラソンは市内外に認知度高く、素晴らしい事業である。一方で、更衣室などの整備や京成佐倉駅からのアクセスや沿道の飲食店が少ないなど、参加者やボランティアへのおもてなしが足りない。公式マラソンであり、イベントとして定着しており、営業マインドを持って佐倉市のイメージを上げるために全市的に取り組んでもらいたい。 ・佐倉市でも、スポーツ施設の名称に「佐倉城」を冠するなど、印象的な名称を付けてみてはどうか。ホテルなども、「キャッスルホテル」などとしているところはある。
懇話会意見等を踏まえた今後について	

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	2: 佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	施策名	(6)良好な景観の 地域づくりの推進		評価年度			
			取得状況	取得状況	取得状況	取得状況		
施策開始 のきっかけ	第4次佐倉市総合計画におけるまちづくりの基本方針「住環境が整備された住みやすいまちづくり」の実現に当たり、豊かなみどりや歴史・文化を活かした佐倉市の個性あふれる景観の形成を推進する必要があるため。	実施計画額(千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
			2,843	3,902	3,226	3,225		
施策の内容								
・「佐倉市のイメージ」を高め、定住・交流人口の増加を図るため、豊かなみどりや歴史・文化を活かした、佐倉の個性あふれる景観の形成を進めます。								
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定数	1区域	-	0区域	0区域	0区域	0区域		
達成率								
0%								
%								
%								
KPI設定の 考え方・根拠	指標名	初期値	目標値				達成状況	
				27年度	28年度	29年度		
市民の景観団体への技術的支援	1団体/年 (平成26年度)	2団体/年 (延べ10団体)	10%	20%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
KPI設定の 考え方・根拠	指標名	初期値	目標値				達成状況	
				27年度	28年度	29年度		
市民等が主体的に取り組む景観形成活動を支援し、景観形成を推進するための指標として設定。 達成率：(実績値 / 目標値) × 100	市民の景観団体への技術的支援	1団体/年 (平成26年度)	2団体/年 (延べ10団体)	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								
具体的な事業	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度		
景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	景観形成重点区域の指定は、対象区域内の住民等の意向確認に時間を要しているため、指定に至らなかった。	10%	20%	10%	20%	20%		
達成率								
10%								
%								
%								

KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				21.1%	4.8%			
KPI設定の 考え方・根拠	子宮頸がん検診の受診率	19.9% (平成26年度)	50%に増加 達成率	4.0%	-50.2%	%	%	%
				国の「がん対策推進基本計画」(H24～H28)、市の「健康さくら21(第2次)」(H25～H34)によるもの。●平成28年度の検診受診率は、算定時の分母となる対象者人口について、国の通知により変更があったため、見かけ上、平成27年度の受診率に対して下落した表示となっている。＜対象者人口の変更に伴って、農林水産業を含む就業人口を除いた市区町村人口20,694人、②平成28年度から、市区町村の検診対象年齢人口75,670人●従来の算定方法では、子宮頸がん検診 平成28年度の受診率は17.7%、達成率は7.3%である。				
				達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100				
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				19.6%	11.5%			
KPI設定の 考え方・根拠	乳がん検診の受診率	18.2% (平成26年度)	50%に増加 達成率	4.4%	-21.1%	%	%	%
				国の「がん対策推進基本計画」(H24～H28)、市の「健康さくら21(第2次)」(H25～H34)によるもの。●平成28年度の検診受診率は、算定時の分母となる対象者人口について、国の通知により変更があったため、見かけ上、平成27年度の受診率に対して下落した表示となっている。＜対象者人口の変更に伴って、農林水産業を含む就業人口を除いた市区町村人口38,267人、②平成28年度から、市区町村の検診対象年齢人口67,648人●従来の算定方法では、平成28年度の受診率は20.3%、達成率は6.6%である。				
				達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100				
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				33.2%	31.9%(暫定値)			
KPI設定の 考え方・根拠	特定健診の受診率	31.9% (平成25年度)	60%に増加 達成率	4.6%	0%	%	%	%
				第二期市特定健康診査等実施計画より(平成25年から29年まで) 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100				
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				16.1%	17.0%(暫定値)			
KPI設定の 考え方・根拠	特定保健指導の実施率	26.5% (平成26年度)	50%に増加 達成率	44.3%	40.40%	%	%	%
				第二期市特定健康診査等実施計画より(平成25年から29年まで) 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100				
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				2.7%	3.10%			
KPI設定の 考え方・根拠	人間ドックの実施率	2.4% (平成26年度)	3.4%に増加 達成率	30.0%	70%	%	%	%
				平成24年の事業開始時は他市町村の状況から1.5%と設定したが、利用者の増加が見込まれるため最終目標値を3.4%とした。 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100				
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				203	166			
KPI設定の 考え方・根拠	生活習慣病予防健康教育 累計実施回数	192回 (平成26年度)	200回に増加 達成率	137.5%	-325.0%	%	%	%
				第3次市実施計画の活動指標より。(H23～H27) 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100				

	取組状況 (Do)	評価 (Check)	改善 (Action)
① 各種がん検診の推進 ② 特定健康診査(健康診査)・特定保健指導の推進 具体的事業	① 個別検診を市内50箇所を実施。 ② 集団検診について、肺がん・胃がん・大腸がんの各検診を19会場・57回実施。子宮頸がん検診を4会場・7回、乳がん検診を4会場・23回実施。 ③ 啓発活動を実施。市広報紙・ホームページでのお知らせ、検診対象者への個別勧奨ハガキの送付、転入者・成人式でのチラシ配付、公共施設・病院等へのポスター掲示。	○ 検診受診促進のための個別勧奨ハガキの送付が、特に効果があった。 ● 平成28年度の検診受診率は、国で示している算定時の分母となる対象者人口について、平成27年度までの国勢調査を基に農林水産業を含む就業者人口を除いた市区町村人口から、平成28年度市区町村の検診対象年齢人口へ変更されたことに伴い、見かけ上、平成27年度の受診率に対して下落した表示となっている。(対象者人口：胃がん・肺がん・大腸がんの各検診 H27 52,479人、H28 111,335人、子宮頸がん検診 H27 20,694人、H28 75,670人、乳がん検診 H27 38,267人、H28 67,648人)	個別勧奨ハガキの送付は、送付量や郵便料も考慮しながら、送付対象者を効果の高いと思われる年齢に絞り、的確に実施する。
	【特定健診】 特定健診未受診者勧奨の実施 ・過去3年間未受診者への受診勧奨及びアンケートの実施 ・前年度初めて受診したかた及び前々年度受診も翌年未受診の方への受診勧奨の実施 ・広報さくらへの掲載 【特定保健指導】 達成状況については、法定報告値となるため、記載できる数値が現状ではない。(法定報告が、平成27年度の終了者及) 1) 特定保健指導利用率の向上に向けて、以下の取組を実施。 ① 集団検診会場での特定保健指導啓発パネルの設置 ② 個別健診実施医療機関でのチラシの設置 ③ 健康アドバイス会の周知 ・集団健診：個別通知送付前日に、電話勧奨を実施 ・個別健診：健診結果説明時に医療機関より案内 ・未参加者への再勧奨：個別通知の実施 2) 特定保健指導未終了者への勧奨 ① 未終了者に、個別通知及び電話による保健指導の継続利用を勧奨し、終了に向けた支援を実施。	【特定健診】 達成状況については法定値となる。正式な値は10月以降の法定報告値となる。 未受診者アンケートを実施したこと、過去3年間未受診で医療機関にかかっていない方については、アンケートの回収率も低く、関心の低さがうかがえた。 受診勧奨の結果はアンケートの対象者が一番受診率が低く、前年初めて受診した方や前々年度受診後未受診の方の方が受診率が高く、勧奨による受診行動を促しやすいことが分かった。 未受診者の割合としては、生活習慣で治療中の方の人数、割合とも多いが、受診している人の内訳をみると、生活習慣で治療中の方の受診率が一番多いことから、この層への受診勧奨をすることで、受診率の増加がみられると思われるため、次年度については、受診勧奨対象者について検討が必要である。 【特定保健指導】 達成状況については法定値となる。正式な値は10月以降の法定報告値となる。 特定保健指導の利用者増加をめざし、定例の健康アドバイス会に参加できない者については訪問指導等、本人の都合にできる限りあわせて対応することとしたが、参加者が減少している。平成27年度より特定保健指導対象者の勧奨方法を変更したことも要因であると思われる。(従来は、特定健診の結果を健康アドバイス会で返却していたが、結果を先に返却して欲しいとの市民からの要望があり、結果送付後にアドバイス会に申し込む方法に変更した。) また、特定保健指導参加者からは、「指導を受けてメタボ予防につながった」、「血液データが改善し良かった」等大変好評であるため、参加者の声を活かしたPRを検討していく必要がある。	【特定健診】 未受診者勧奨の対象者を、母数が多く、健康に関心のある層(既治療者で健診未受診者)及び初めて対象となる40歳の方へ及び昨年度初めて受けた方もしくは前年度受診の昨年度未受診者への勧奨を実施する。 【特定保健指導】 特定健診の集団会場、腹囲測定で、基準外となった者に、その場で健康アドバイス会のチラシを手渡しし参加を促す取り組みを実施する。

	③人間(脳)ドック助成の推進 (対象者は年度当初の4/1の20歳以上の被保)	①広報さくらへの掲載 ②健康保険課、各出張所にて案内パンフレットを配布	前年度に比べ、短期人間ドック助成の件数が119件(10.2%)増加しており、広報等での周知に効果があつたと考えられる。 また、短期人間ドックと脳ドックの併用助成は90件あり、脳ドックを助成対象に加えたことで、市民の関心が高まったと考えられる。	セルフメディケーション税制における利点を効果的に周知し、利用数の増加を図る。 また、利用状況を考慮し、指定医療機関の追加を検討する。
	④生活習慣病重症化予防の推進	市民を対象に、生活習慣病の予防を目的に各種教室、出前健康講座、講演会等を実施。計166回、延べ6,256人が参加した。前年度と比べ、延べ2,213人が減少した。 また、「糖尿病性腎症重症化予防事業」を新規に実施し21人に、保健指導を実施した。	生活習慣病予防健康教育実施回数は、目標値を達成することができず、参加者数も減少した。出前健康講座では、市民からの依頼の回数が減少したり、運動の講習会等では、使用している施設の水漏れ等の関係により、開催回数が、減少したことなどが影響していると考えられる。今後も事業の周知を継続して、実施していく必要がある。	28年度から、現行の生活習慣病予防のための各種教室、出前健康講座、講演会等に加え、「糖尿病性腎症重症化予防事業」を新規に実施した。「糖尿病性腎症重症化予防事業」では、個別指導に加えて講演会等の実施をするなどして、事業の充実を図るように努める。
懇話会意見等	- 女性対象の検診の受診率を上げる工夫として、特にがんが発生しやすい高発年齢の管理やコスト的に難しいが、希望者は届け出れば検診の案内を受けられることを積極的に周知するよう努めたい。 - 検診費用は一部自費となるが、国からの補助があるものは市でクーポン券を作り対象者に送付している点はよい。 - 再診のチェックについては、要精密検査となった方が精密検査を受診したか、また、受信した結果がどうであったのかを医療機関の協力のものと調査し、90%程度は把握して年に1回国に報告できている。 - 検診の受診率を上げるための工夫はいろいろしているが、目標達成には弱いという印象がある。Actionの部分でもう少し工夫し、目標値達成を目指されたい。			
懇話会意見等を踏まえて今後について				

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	4. 将来にわたって安心・安全に暮らせる「まち」をつくります	施策名	(4)市民の学習・文化活動の支援推進		評価年度	
			平成28年度	平成29年度	取り組み推進課 企画政策課	平成28年度 平成31年度
施策開始のきっかけ	定住人口の維持・増加のためには、市民が将来にわたって住み続けたいと思えるまちづくりの一方策として、市民の学習・文化活動を支援する施策の充実が必要と考えられるため。	実施計画額(千円)	228,520	385,709	458,441	77,657
施策の内容	市民が生涯にわたってふるさと佐倉で学び、文化活動を続けられるために、市民のライフステージや時代の変化に応じた学習と文化活動の場と機会を提供し、活動の支援を推進します。					
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況		
	公民館・図書館・音楽ホール・美術館・コミュニティセンターの利用者延総数	113万人 (平成26年度)	120万人に増加	27年度 118万人	28年度 110万人	29年度 30年度 31年度
KPI設定の考え方・根拠	学習環境整備と学習機会の提供の成果は利用者延総数で評価することとし、平成26年度より7万人増加の120万人を目標値としました。 達成率：（(実績値-初期値) / (目標値-初期値)）× 100			71.4%	初期値を下回った	%
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況		
	協定を締結している大学等との協働事業数	82事業/年 (平成26年度)	100事業/年に増加	27年度 99事業	28年度 99事業	29年度 30年度 31年度
KPI設定の考え方・根拠	大学等との協働事業数を増やしていくことにより、市民の学習と文化活動の場と機会を提供し、市民の学習・文化活動の支援に資すると考えられるため。 達成率：（(実績値-初期値) / (目標値-初期値)）× 100			94.4%	94.4%	%
具体的事業	取組状況(Do)		評価(Check)		改善(Action)	
	①公民館、図書館、音楽ホール、美術館、コミュニティセンターにおける学習環境整備と学習機会の提供	各種主催事業の開催(音楽ホール：エマニエル・パユwithベルリン・フィルの仲間たち、美術館：カオスモス5など)	魅力ある主催事業を実施することができました。 (一部施設において、空調改修工事のため、長期臨時休館あり)		多くの市民に関心を持ってもらえるよう、引き続き魅力ある主催事業の開催に努めていきます。	
懇話会意見等	②大学等の教育機関の誘致	順天堂大学と事務レベルでの協議を行うため、連絡調整を図ったが、協議にはいたっていない。	大学進出の候補地が決まっていなかったため、早急な実現は困難だが、引き続き、事務レベルでの連絡調整を継続して、市民に対して納得のいく説明ができるよう、誘致実現のための事務を着実に進めていく必要があります。		本市への進出意向を示している唯一の高等教育機関である学校法人順天堂との事務レベルでの連絡調整を継続していきます。	
	音楽ホールはインパクトがある施設であり、市内外からもそのイベントが目玉されている。新聞でも佐倉市の自主公演が非常に面白いと言われている。いい講演や、演奏家を呼ぶなりして名前を上げていただきたい。 大学誘致は、病院と異なり、大学がどれだけの活性化をもたらすのかがよく見えない。大学を誘致しても市の活性化にはならない、学生に住んでもらわないと意味がないという冷ややかな意見も聴いた。市民を説得できる理由が示せなければ投資には賛成しかねる。 佐倉市は市民大学も充実している。市外からも、佐倉の歴史を持つまちとして評価されている。また、市立美術館がある自治体は多くない。「ミナハナソウ展」など先進的な取組みもっており、市の職員で運営すべてに携わっている。維持は大変だと思うが続けてもらいたい。 ミレニアムセンター佐倉は佐倉コミュニティセンターを含めた施設だが、包含施設はインターネットで検索しても出てこない。名称がいくつもあったり、なんの施設が入っているのか、複合施設は市民にとって非常に分かりづらいので改善されたい。					
懇話会意見等を踏まえた今後について						

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	4: 将来にわたって安心・安全に暮らせる「まち」をつくります	施策名	(9)市南部地域対策の推進				評価年度	平成28年度			
施策開始 のきっかけ	選ばれるまちとなる要素の一つである豊かな自然環境や景観を将来に引き継いでいくためには、人口減少の著しい市南部地域に対する定住・交流人口増加の取組が必要であると考えられるため。	実施計画額(千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	関通課	企画政策課			
			3,193	0	5,214	3,696					
施策の内容	・市南部地域は、継承されてきた自然環境・自然景観とともに、重要な営農基盤を有する地域であることから、人口減少に歯止めをかけるとともに、地域の活力を維持するため、地域住民の意見を聴きながら、過疎化対策や定住・交流人口増加に向けた取組みを実施します。										
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				29年度	30年度	31年度	
				和田地区の人口	維持	27年度	28年度				29年度
					達成率	1,953人	1,913人				%
KPI設定の 考え方・根拠	市南部地域対策の効果を測る指標として、減少傾向にある和田地区の人口の維持が目標として妥当と考えられるため、各年度末の地区人口を指標として設定します。 達成率：(実績値－初期値) / (目標値－初期値) × 100 ただし、初期値を下回った場合は、「初期値を下回った」と記載。										
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				29年度	30年度	31年度	
				弥富地区の人口	維持	27年度	28年度				29年度
					達成率	1,615人	1,581人				%
KPI設定の 考え方・根拠	市南部地域対策の効果を測る指標として、減少傾向にある弥富地区の人口の維持が目標として妥当と考えられるため、各年度末の地区人口を指標として設定します。 達成率：(実績値－初期値) / (目標値－初期値) × 100 ただし、初期値を下回った場合は、「初期値を下回った」と記載。										
具体的事業	取組状況(Do)	評価(Check)		改善(Action)							
		①地域住民との意見交換会の継続的な実施	弥富地区のまちづくり協議会(ふるさと弥富を愛する会)の会合(7/26)と和田地区のまちづくり協議会設立準備会の会合(9/4)において、総合戦略の内容及び平成27年度の意見交換会における地域住民からの意見を取りまとめた報告書について説明しました。	地域住民に対し、総合戦略の内容等を説明し、意見を聴取することができたが、より意見交換が活発なものとするための工夫が必要です。	地域住民が求めている交通不便への対応について、事業の具体化を図ることができました。	意見交換をより活発なものとするため、より具体的に当該地域を対象とした市の施策の内容を示し、これに対する意見を聴取するとともに、当該意見交換の場に関係課の職員も同席することとします。					
懇話会意見等	②地域住民の意見を踏まえた定住・交流人口増加策の具体化・実施	都市計画課において策定した佐倉市公共交通網形成計画において、和田地区・弥富地区における交通空白地域対策の見直しについて位置付けるとともに、コミュニティバスの試験運行に必要な費用を平成29年度予算に計上しました。	多くの地域住民が求めている交通不便への対応について、事業の具体化を図ることができました。	コミュニティバスの試験運行について、より地域住民のニーズを踏まえたものとするため、意見を聴きながら準備を進める必要があります。	その他、定住・交流人口の増加に資する施策の具	体化については、引き続き、地域住民の意見を聴きながら検討する必要があります。					
		・デマンド交通の見直しにあたり、利用者の動向やニーズ調査を行い、十分に分析をしたうえで廃止を決定したものとして評価できる。デマンド交通を日常の移動手段としていた利用者はごくわずかだが、どのようにフォローするかが最も重要である。コミュニティバスの試験運行を進めつつ、マイカーで送迎する仕組みや民間企業の社員送迎バスに相乗りさせてもらう手段の検討など、交通弱者を扱い上げる手段を研究されたい。									
懇話会意見等	・デマンド交通もコミュニティバスも、いずれも狙いは移動困難者や買い物弱者の救済である。デマンド交通の利用率の低さは、ユーザー目線での利用しづらさや周知方法に課題があったのではないかと、それを改善することにより利用率があがる可能性もあるため、デマンド交通施策で足りなかった部分があれば、コミュニティバス施策に活かしてほしい。										
	・交通弱者が多い地域の交通手段はマイカー中心であり、運転できなくなると高齢者が移動困難者、買い物困難者となっている。地域でマイカーはたくさん余っていると想定されるので、有償ボランティアや地区社協を利用して運転代行の助け合いはできないか。運転者責任が生じるという課題はあるが、関係機関と連携して手段を検討されたい。										
懇話会意見等を踏まえた今後について											

テーマ:「高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するために」

佐倉市はこんなこと やっています	①高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる体制整備						主な担当課	高齢者福祉課			
	なぜやるの？	どんなことをするの？	こんなことやってます	28年度の取組状況(Do)	自己評価(Check)	29年度に改善したいこと(Action)	関連課	－			
							実施計画額 (千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
				①日常生活圏域に委託型の地域包括支援センターを各1箇所(合計5箇所)設置し、高齢者やその家族などを身近な地域でサポート(相談対応件数4,285件) ②地域ケア会議の開催(30回) ③在宅医療・介護の連携推進・・・佐倉市在宅医療・介護連絡会議の開催(H28.6、H28.11)、多職種連携研修の開催(H28.8)	様々な機関と連携・協力しながら事業を実施できたが、KPI(在宅医療・介護の連携ができている機関の割合を95%に増加)の達成状況については把握できていません。	KPIの達成状況を把握するため、市内医療機関が介護関係者等と連携が図れているか調査を行います。 また、在宅医療・介護連携推進事業において平成30年3月末までに8つの事業項目全てを実施することとされているため、順次取組を進めることで、ネットワークの強化を図ります。	0	0	0	0	
				①介護予防普及啓発事業(講演会、教室、出前講座等)1,288回 22,752人 ②介護予防ボランティアの養成・育成(ボランティア登録数144人) ③体操会の実施(2団体)や活動費の補助(27団体) ④介護予防活動について、広報さくらやケーブテレビでの特集など積極的な広報周知を行い、介護予防活動に取り組む団体や市民を増やすことができました。	①介護予防普及啓発事業は、前年度に比べ多くの方に参加していただきました。 ②介護予防ボランティアは、市や地域包括支援センターの介護予防事業や地域における自主活動等で活躍していただきました。今後は、地域において自主活動が活発にできるための仕組みが必要です。 ③住民が主体となつて活動できるよう体操会や活動費の補助を行えたので、次年度以降拡大していきます。 各事業の評価は上記のとおりですが、市の介護予防事業の認知度は初期値を下回っている状況です。これを向上させるためには、身近な場所での介護予防に取り組む市民団体への支援を充実させ、さらに多くの参加者を増やしていく必要があります。	多くの高齢者が介護予防の活動に取組み、それらの活動が生きがいや役割づくりとなるためには、身近な地域で継続的に介護予防の活動をさらに充実していく必要があります。 このため、専門職による活動支援(体操会等)や活動費の補助を継続して行っていく予定です。また、介護予防の活動がさらに充実・拡大していくよう交流会の開催や広報周知を図ります。					
もっと具体的に！				生活支援コーディネーターを市内5カ所の地域包括支援センター内に配置し、高齢者の生活を支える仕組みづくりに取り組みました。	③多様な生活支援サービスの充実	高齢者の生活支援ニーズに対応するため、地区社会福祉協議会や自治会・町内会、ボランティア団体等の地域を支える皆様のご協力をいただきながら、引き続き生活支援の仕組みづくりを進めて行く必要があります。					

	④認知症施策の推進 ①認知症サポーター養成講座（53回実施、2,511人が受講） ②認知症地域支援推進員を各地域包括支援センター内に1名ずつ配置 ③認知症カフェを日常生活圏域に各1箇所（合計5か所）委託により開設（H27.9～） ④認知症高齢者声かけ訓練をしづが原まちづくり協議会と実施（H29.2）	小・中学校や民間企業（郵便局、病院、コンビニ等）において認知症サポーター養成講座を開催し、年間目標値である2,000人を超えて実施することができました。 認知症の人とその家族を地域で支援する体制を整えるため、認知症カフェを地域の介護人材を活用して開設するとともに、認知症高齢者への声かけ訓練をまち協と連携し実施することができました。	認知症の対応の遅れを防ぐため、医療・介護職による早期対応・早期支援の仕組みを検討します。 認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、正しい知識の理解を推進するための認知症サポーター養成講座を継続的に開催するとともに、地域団体との協働により見守り体制の強化を推進していきます。
【懇話会からの提案】 もっと、こんなふうにしてみたら？	・地域の課題を意外と知らない方が多い。地域包括支援センターで、自治会長、民生委員、ケアマネジャー、介護施設や地区社協の職員などが意見を出し合う地域ケア会議を開始した地区もあります。ほかの地区でもぜひ推進していただきたい。 ・介護されないための方法を自分で見つけることが必要ですが、介護予防事業の認知度が低くてもつもない。 ・認知症サポーター要請講座は、小中学校や民間企業などで非常に意欲的に開催されており、評価されています。講座で使われるビデオも非常によくできており、家族も助かります。より一層進めていただきたい。 ・地域のサポートセンターで開始した体操教室への参加者が年々増加しています。週1回、集会所で実施され、予防推進事業として浸透していると言えます。 ・佐倉市は施設が充実し始めて、特別養護老人ホームの待機者待機が減ったと聞いています。 ・高齢者の課題としては、移動難民、買い物難民といったものがあり、これを解決しようとすると、交通システムのほか、様々な問題が絡んできます。福祉部だけではなく、自治人權推進課や都市計画課などの連携が必要であるので、ぜひこれからも横断的に取り組んでいただきたい。 ・商業者の団体では、高齢者への対応は今後の最大の課題となっています。御用聞きや宅配サービスができないか可能性を探ってききましたが、個店対応では難しく、また、組織を作ることも難しい状況にあります。事業者にとっても地域での評価につながることで、生活支援コーディネーターと一緒にやれることがないか情報をいただきたいです。 ・生活支援サービス、家事援助サービスについては、佐倉市内では8地区社協が実施しています。また、シルバー人材センターでもワンコインでもワンコインで実施しています。		



佐倉市はこんなことやってます	②地域のまちづくり・コミュニティ活動の環境整備				主な担当課	自治人権推進課
					関連課	-
なぜやるの？	複雑化・多様化する市民ニーズに対して行政がその全てに対応することは難しく、また自治会等への加入率低下に伴う活動の停滞などの課題を捉えて、「地域のまちづくり・コミュニティ活動の環境整備」を推進するきっかけとなりました。	実施計画額 (千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
どんなことをするの？	・地域社会における町内会・自治会をはじめとした各種団体の活動や各種団体が協働して行う活動に対し、自主活動の妨げにならない範囲で可能な支援を行います。 ・いつまでも住み続けられる地域であるために、自治会・町内会・ボランティア団体・NPO、企業、大学、行政が相互に連携・協働し、地域課題に柔軟に対応するための環境を整備します。	84, 874	85, 068	87, 168	86, 838	
もっと具体的に！	こんなことやってます	28年度の取組状況 (Do)	自己評価 (Check)	29年度に改善したいこと (Action)		
	①自治会、町内会の活動が活性化するための支援	自治会加入率向上のため、各側面からの支援を実施。 ①自治会活動の活性化のため、245団体へ自治会活動の交付金を交付を実施。 ②安心して自治会活動が行えるよう、活動に対する保険に加入。 ③活動の拠点となる集会所の建設・修繕・賃借に対して、15団体へ補助金の交付を実施。 ④自治会運営のサポートとなる自治会運営マニュアルの作成。	取組状況①②③を通じて単年度の活動を補助し、③を通じて複数年度を見据えた拠点の整備を行なったことは、自治会活動を支援する即効的な成果があったものと考えます。④のマニュアルについては、概ね好意的に受け止められており、今後の負担軽減支援策への足掛かりとなりました。 自治会加入率が初期値を下回った要因としては、魅力ある自治会活動や役員就任への負担感を払しょくしきれず、自治会からの脱会者や自治会への未加入者が増えたことが考えられます。	交付金・補助金・保険手続等を適切迅速に処理することにより、即効性のある自治会活動の補助を効果的に行います。 自治会の負担軽減支援策として自治会長の名札を作成・配布し、自治会長が行う自治会加入促進活動等を支援します。また、これをもって来庁時における自治会長と市職員との良好な関係構築に資するものとしします。		
	②地域社会における各種団体の活動や各種団体が協働して行う活動に対する支援	設立された地域まちづくり協議会に対して以下の支援を行いました。 ①地域まちづくり事業に対する、金銭的支援の実施：14協議会 ②地域まちづくり事業に対する、技術的支援の実施：14協議会	①14協議会が行う各種事業に対して、助成金の交付を行っており、概ね順調です。 ②14協議会が行う各種事業に対して、職員派遣や情報提供などを行っており、概ね順調です。	①今後も、必要性に応じて金銭的支援を実施してまいります。 ②今後も、必要性に応じて技術的支援を実施してまいります。		
	③市民活動の情報交流を推進する環境整備	①登録団体を対象とした市民活動団体のつどい「全体交流会」を2回、「分野別交流会」を2回開催 ②市内の市民公益活動の担い手や支援者の輪を広げるためのイベント「市民活動フェスタ」を開催（来場者1,400人） ③新たな担い手発掘を目的として「出会い、フォーラム」を市民活動フェスタ内で1回開催 ④「市民公益活動情報サイト」の運営	登録団体同士の情報交換を行う場の提供、市民活動の参加促進のための体験型イベントを行い、情報の収集・発信、及び魅力的な企画事業の実施に繋がる事業の実施ができたものと考えます。 登録団体数が初期値を下回った要因としては、新規登録団体が着実に増加している一方、団体の会員の高齢化や団体の弱体化により解散している団体も増加していることが考えられます。	平成29年度よりサポートセンターが市直営に移行することに伴い、市民公益活動の推進を図るという施設目的に立ち返り、相談機能・企画事業の充実を図ります。		
	④自治会・町内会・ボランティア団体・NPO、企業、大学、行政の連携・協働の環境整備	地域まちづくり協議会の設立推進：「1協議会設立」 (三千代田・染井野校区まち協)	平成28年度に、新規に設立された協議会の数は、1協議会となっており、概ね順調です。	今後も、未設置小学校区が改善されるよう協議会の設立支援に努めてまいります。		

【懇話会からの提案】
もっと、こんなふうに
してみたら？

- 自治会加入率が減少しますが、魅力の減少がその大きな要因であると思われる。地域団体は従来の考えから抜け、少子高齢化・生活支援など地域の福祉課題により積極的に関わりを持っていかないと信頼されない存在となり、先細りしてしまうでしょう。これからのまちづくり協議会は、地域の福祉課題について、積極的に関わっていくような形を求めていくべきです。また、包括支援センターと地域団体が連携してやっていけるよう行政も支援すべきではないでしょうか。
- 市民個人も、地元の問題を自分たちの問題として考えるところまでいていないので、そうなるよう努力すべきではないでしょうか。
- 自治会の加入率の減少とともに、役員の成り手がいないことも問題の一つです。その原因は、行政改革の名のもとに、本来行政がやるべきことを自治会にやらせてきたことが考えられます。行政のそういう姿勢が市民の目に映り、加入率の低下を招いている面もあるのではないのでしょうか。地域でやるべきことはやる必要があるが自治会役員にどうしてこれだけ仕事があるのか、行政はもっと考えるべきです。
- 自治会長の平均年齢が高齢化しています。自治会運営に後輩が入ってこないため、70歳くらいまでは務めざるを得ず、75歳の人がもう10年をと割り切って頑張っている現状です。行政の全面的な支援と、地域の支え合いが必要です。
- 市の社会協議会と地区の社会協議会は異なります。市の社協は、成年後見制度など一般市民に直結したいことをやるようになってきています。一方、地区社協は福祉委員の集まりであり、その役割の8割くらいは敬老会で、もっと積極的に支えあい活動など住民に直結した福祉活動に取り組むべきではないでしょうか。自治会とも連携を図り、福祉の問題を我々住民全体が地域の中に落し込んでやっていかないといいけないのではないのでしょうか。

さ〜て、
みなさんのご意見は…？

佐倉市はこんなことやっています		③地域にあった交通手段の確保				主な担当課		都市計画課	
なぜやるの？		第4次佐倉市総合計画におけるまちづくりの基本方針「住環境が整備された住みやすいまちづくり」の実現に当たり、公共交通の充実による地域住民の移動手段の確保が必要となりました。		実施計画額 (千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
						37, 949	55, 405	98, 064	100, 589
どんなことをするのか？		・ 交通不便地域対策や交通弱者対策として、コミュニティバス等の導入や民間事業者との連携により、地域の移動手段を確保します。 ・ 地域住民の足として必要不可欠なバス路線が確保できるように要望するとともに既存路線の維持などのための支援を行います。また、沿線市町と連携して、鉄道事業者にダイヤや改正や増便など利便性の向上について要望します。							
もっと具体的に！		こんなことやっています	28年度の取組状況 (Do)	自己評価 (Check)	29年度に改善したいこと (Action)				
		①交通不便地域に対する交通手段の確保	交通不便地域の解消を含む公共交通への取組を定める「佐倉市地域公共交通網形成計画」の作成に着手しました。 また、佐倉地区（内郷地区）において佐倉市循環バス、和田・弥富地区において佐倉市南部地域デマンド交通を運行しました。	佐倉市地域公共交通網形成計画を策定しました。 市内で循環バスやデマンド交通を運行することにより、3地区の移動手段を確保することができました。 デマンド交通については利用状況が低迷しています。	佐倉市地域公共交通網形成計画に基づき、空白地域対策事業に着手します。 循環バスは運行を維持し、地域の移動手段を確保します。 デマンド交通については運行を見直し、コミュニティバスを運行します。				
		②バス路線が確保できるように要望するとともに既存路線の維持などのための支援	ちばグリーンバスが運行する神門線・高崎線の2路線4区間について、運行経費の一部を補助しています。	和田・弥富地区について、デマンド交通と併せ、民間バス路線の運行経費の一部を補助したことで、地域の移動手段を確保できました。	今後は、市実施事業（コミュニティバスなど）と民間バス事業との連携について検討していきます。				
【懇話会からの提案】 もっと、こんなふうにしてみたら？		・ 地域で暮らしているために必要なものとして、交通手段の確保があげられます。							
		・ 昨年度の市民ワークショップでは、病院や買い物、公共施設をめぐる巡回バスや巡回タクシー、移動販売などの環境整備は、コミュニティを維持するためにも今後必要となるとの意見がありました。							
		・ より高齢化が進み、運転免許証の返納が増加すれば、広い地域でコミュニティバス等の必要性が高まります。							
		・ コミュニティバス等の運行を維持するためには財源も必要ですが、ある程度の運賃を支払っても、市民が納得できる利便性の向上があれば、相応負担も了解を得られることもあるのでは。市には財源と効果のバランス、市民が納得できるラインを見極め、継続性のある公共交通のあり方を検討してください。							



佐倉市はこんなことやってます		④災害に備えた体制整備・支援				危機管理室	
		主な担当課		関連課			
なぜやるの？	平成7年の阪神・淡路大震災や過去の風水害を受け、災害に強いまちづくりを目指します。	実施計画額 (千円)	平成28年度 256,483	平成29年度 51,494	平成30年度 346,933	平成31年度 346,933	-
どんなことをするの？	・防災行政無線や防災井戸、防災備蓄倉庫などの防災・治水関連施設の整備を図ります。 ・災害による被害を最小限に抑えるため、自主防災組織や耐震診断など市民自身による災害への備えに対して支援を行います。						
もっと具体的に！	こんなことやってます	28年度の取組状況(Do)	自己評価(Check)		29年度に改善したいこと(Action)		
	①防災行政無線や防災井戸、防災備蓄倉庫などの防災・治水関連施設の整備	①防災行政無線（同報系）を市内3箇所に設置。 ②防災行政無線（移動系）の整備を完了。	本年度は、防災行政無線（同報系）デジタル化改修工事に向けての実施設計年度であり、防災行政無線（同報系）の設置数は、3基設置にとどまりました。		平成28年度に策定した防災行政無線（同報系）デジタル化改修工事の実施設計に基づき、当該事業を実施するとともに、今後、防災行政無線（同報系）が必要とされる箇所への設置に努めます。		
	②自主防災組織や耐震診断など市民自身による災害への備えに対する支援	①自主防災組織の実施する防災訓練や講話に参加。 ②自主防災組織に対して助成金の交付や資機材の貸与を実施。 ③自主防災組織リーダー研修会の実施。	既存の自主防災組織の代表者に対して、リーダー研修会を実施した。6団体の自主防災組織が新たに設立されました。 しかし、和田・弥富地区においては、地縁・血縁関係による助け合いがあることを理由に設立団体が少ないです。		今後も引き続き、既存の自主防災組織を支援するとともに、地域での防災講演会などの場をと おして自主防災組織の必要性を周知して、設立に向けたサポートを行なっていきます。		
	【懇話会からの提案】 もっと、こんなふうにしてみたら？	・防災無線が市内111か所に設置され、効果はあると思うが、場所によっては聞こえないところもあります。過去に配布された防災ラジオがとても聞きやすいので、これを有償でも構わないので、各戸に配布できないでしょうか。 ・防災無線は地域別に流せばよい情報もあります。防災無線のデジタル化によりエリア毎の情報を流せるようにしてもらいたいです。また、パソコンやスマートフォンなどから、自分が欲しい情報を自分で取得できる仕組みになるとよいです。 ・254程度ある自治会のうち、自主防災組織が111で、組織化をよく推進していると思います。自主防災組織を増やすことはよいが、実際に機能しているかどうかの中身の精査も必要です。また、自治会役員と防災組織の役員を別建てで選ぶようなところもあるので、その点についても指導してほしい。自主防災組織の維持・継続性は重要です。 ・市の防災対策は、防災無線、防災組織、マンホールトイレなど幅広い。その事業担当課は、マンホールトイレは上下水道部、要援護者については福祉部と分かれていますが、防災対策はソフト・ハードともに危機管理室で一元化した方がよいのではないのでしょうか。 ・地区別の防災計画はあるのでしょうか。災害弱者を細やかに救済・支援する地域の防災計画を作る必要があると思われる。地域の中で、誰が誰を避難所まで連れていくということをし、具体的に決めておきたいほうがいいでしょう。そのための計画がないと自主防災組織を作っても機能しないと思われま す。これは自主防災組織とも関連し、国も地域毎に作る方針だったと思われるので努力をお願いしたいです。					

さ〜て、
みなさんのご意見は・・・？

平成29年度 第2回市民ワークショップ (第6回佐倉市行政評価懇話会)

施策評価シート

テーマ「佐倉の魅力発信」

①シティプロモーション

- ・(1)シティプロモーションの推進
- ・(2)観光客誘致のための取組みの実施
- ・(3)歴史文化遺産を活かした来訪者の増加
- ・(4)都市と農村の交流促進

②子育てしやすいまちづくり

- ・(1)若い世代の経済的安定と結婚支援
- ・(2)出産や子育てに対する支援
- ・(3)安心して子育てできる地域づくり
- ・(4)地域の特色を活かした教育の推進



ワークショップのテーマに沿った、佐倉市のおしごとをご紹介します。

市の施策とその実績に対して自己評価を行い、さらに第三者委員会（佐倉市行政評価懇話会）から意見をいただいたものです。

さ〜て、みなさんのご意見は？

佐倉市はこんなこと やっています		①-(1) シティプロモーションの推進				主な担当課		企画政策課	
なぜやるの？		第4次佐倉市総合計画では人口減少課題対策として、「定住人口の維持」「交流人口の増加」が将来都市像を描くための前提として提示され、「定住・交流促進」への積極的な取組が必要となったため。		実施計画額(千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
				7,480		12,453	11,141	11,141	11,141
どんなことをするの？		・定住・交流人口の増加を図るため、市の知名度を高めるとともに、市内外のターゲットに向けた効果的かつ戦略的な情報発信を推進します。							
		20年度の取組状況(Do)		自己評価(Check)		29年度に改善したいこと(Action)			
もっと具体的に！	こんなことやってます	①佐倉イベントガイド(夏号・秋冬号)を1.2万部作成し、京成線東京方面の各駅等に配架 ②ミニコミ紙、雑誌等に広告を掲載(あんふあん、リビング新聞 東京東版・横浜東版、田舎暮らしの本、Hanako Mook) ③プレスリリース配信サービスを利用(リリース4件) ④文化施設(旧堀田邸)等でロケを受入れ(25回)		東京方面に向けたイベント・観光情報発信の強化や、プレスリリース配信サービスの試み、ロケの受入れは、イメージアップとブランド力強化に向けた今後の取組に繋がる成果があったものと考ええる。		市内外への情報発信力を更に強化するため、市民参加によるシティプロモーションの構築を図るとともに、各種メディアへの情報発信を行う民間企業のプレスリリース配信サービスの活用等を充実させる。			
	①各種メディアの積極的な売 り込みやロケの受入れによる 佐倉のイメージアップとブラン ド力の強化					定住促進の取組は、「さくらでくらす」を継続してプロモーション活動を展開したことにより、佐倉市のブランド化、魅力発掘に繋がる事業が実施できたものと考ええる。また、Sakura Re Creationの取組みにより、市民による魅力発掘や魅力発信の取組を行うことができた。			
	②定住・パンフレットの作成・配 架／佐倉市のブランド化、魅 力発掘に繋がる事業の実施	①定住促進パンフレット「さくらでくらす」を京成線東京方面の各駅等に配架したほか、イベント等で配布 ②「佐倉ファンクラブの組織化に向けたワーキングセッション」の実施業務委託に基づき「Sakura Re Creation」プロジェクトを実施(ワーキングセッション5回、参加者数延べ189人) ③子育て環境体験ツアーを実施(21人) ④おしゃべりランチ(給食試食・意見収集)を実施(21人)		定住促進の取組は、「さくらでくらす」を継続してプロモーション活動を展開したことにより、佐倉市のブランド化、魅力発掘に繋がる事業が実施できたものと考ええる。また、Sakura Re Creationの取組みにより、市民による魅力発掘や魅力発信の取組を行うことができた。		イベントの集客増加による佐倉市の知名度向上、定住人口の増加を図るため、イベント開催の事前告知に力を入れるとともに、イベント来場者に対するSNS等による情報拡散を促進する仕掛けづくりについて検討。			
【懇話会からの提案】 もっと、こんなふうにし てみたら？	③定住・交流人口増加のため のイベントの開催(パンフレッ トの配布、物産・農産物のPR、 移住・就農相談等の実施)	①JPタワーKITTE東京シティアイ(東京駅丸の内南口)(来場者数2,900人)、東京スカイツリーの「全国観光PRコーナー」(同1,000人)、地下3階イベントスペースで定住促進イベントを開催 ②市内(花火大会、産業まつり等)、近隣市開催イベントで佐倉市紹介ブースを出展 ③東京女子美術大学(連携協定締結)の文化祭で佐倉市紹介ブースを出展		イベント開催や出展では、パンフレットの配布、物産・農産物の販売、移住・就農相談、日本遺産認定紹介、甲冑試着体験等、様々な魅力発信を行うことができた。また、アンケート調査の実施により、市外の方の佐倉市に対する認知度等を把握することができた。		イベントの集客増加による佐倉市の知名度向上、定住人口の増加を図るため、イベント開催の事前告知に力を入れるとともに、イベント来場者に対するSNS等による情報拡散を促進する仕掛けづくりについて検討。			
	・東京での定住イベントが多いが、東京で宣伝しても佐倉に行こうとはなかなかならないのではないか。むしろ近隣の市町村で開催される、都心からも人が集まるイベントで定住促進をアピールしてはどうか。 ・フィルムコミッションは積極的に受け入れてほしい。担当課が市役所の各部署に分かれているが、連携して推進してほしい。 ・テレビや動画を利用して、佐倉をPRすることはできないか。予算や作戦が難しいが、当たれば効果はある。 ・入れ込み客数を把握している部署が分散しており、イベントや観光拠点によって集計対象となるものにならないものがある。統一して把握するようにはどうか。同一規模の観光地の入れ込み客数と比較すると、佐倉はまだまだ伸びしろはあるのでは。 ・佐倉にアウトレットなど集客力が高い施設がない。 ・イベント時に交通渋滞がひどく、駐車場代も高いため、イベントの中身が良くてもしりとりターを失ってしまう。 ・シティプロモーション戦略策定は専門的な知識が必要な面もあり、他市では民間企業出身者を特命で採用するなどしている。予算との関係はあるが、シティプロモーション的な活動を民間企業に評価・支援してもらってはどうか。								

佐倉市はこんなこと やっています		①-② 観光客誘致のための取組みの実施				
なぜやるの？	佐倉市の知名度やイメージの向上や交流人口の増加を図るためには、観光情報の発信や観光イベントの開催を行う必要があるため。	実施計画額(千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
			149,328	203,365	63,300	63,300
どんなことをするの？	こんなことやっています	28年度の取組状況(Do)	自己評価(Check)	29年度に改善したいこと(Action)		
どんなことをするの？	①観光案内所やインターネット、各種メディアを活用した観光情報(多言語によるものを含む)の発信	・日本遺産認定に伴い、作成した多言語(6カ国7言語)パンフレット、リーフレットを観光案内所や観光施設におき配布。併せて、「R佐倉駅前」に日本遺産啓発用の観光案内看板を設置。 ・市内の主要観光拠点13箇所に設置した無料公衆無線LANの運用を行い、4カ国5言語対応の観光情報サイトにより情報発信を行った。	日本遺産の認定や、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックにより、今後増加が予想される外国人観光客への利便性向上を図ることができた。	多言語対応のパンフレットやホームページの充実を図るとともに、各種メディアによる露出の増加や、フェイスブックやツイッター等SNSの効果的な活用(アクセス情報の精査含む)を行う。 その際、引き続き、広報部門、メディアプロモーション部門と連携を図ることとする。		
	②観光イベントの開催や各種観光企画事業等に対する支援	佐倉ふるさと広場における「チュエーリップフエスタ・市民花火大会」、佐倉城址公園における「佐倉城址のさくら」にわのわ(アート&クラフトフェア)」、城下町地区における「佐倉時代まつり」「佐倉秋祭祭り」の開催に当たって、交付金の助成等の支援を行った。	観光入込客数は前年より減少はしたが、初期値と比較して微増の155万人となり、また、満足度も前年度より増加しており、一定の効果があつたものと考えられる。	今後も、内容の充実や効果的かつ効果的な運営に向けて見直しを行ういながら、イベントの開催等を行う。		
	③花を活用したイベントの充実	・4月の「佐倉城址のさくら」。「チュエーリップフエスタ」をはじめとし、7月の「風車のヒマワリガーデン」、10月の「コスモスフェスタ」を開催。リピーターにも喜ばれるよう、毎年度、花の品種や色、植栽配置の変更等の見直しを実施。 ・市内の花めぐりマップを作成し、各種イベント時及び各観光施設にて情報発信を行った。	チュエーリップフエスタの期間中に熊本地震が発生したことで入込客数は減少したものの、周辺観光施設全体に訪れた入込客数は初期値と比較して微増となっており、一定の効果があつたものと考えられる。	今後も、内容の充実や効果的かつ効果的な運営に向けて見直しを行ういながら、イベントの開催等を行う。		
	④「印旛沼周辺地域の活性化推進プラン」に基づく印旛沼周辺地域の整備推進(印旛沼周辺における観光拠点の回遊性の向上を含む)	・印旛沼周辺地域における回遊性の向上を図るため、渡し運輸(ふるさと広場浅備～サンセットヒルズ下仮設橋)間、乗合運輸(春夏秋冬のサザンランドの森)のみの、貸切船の舟運事業を開始した。 ・サンセットヒルズにコミュニティルーム、シャワー・ルーラーズ及び倉庫を設置し、施設利用者が農産物等を通じた交流や長時間滞在が可能となる環境整備を行った。	舟運事業の開始により、佐倉ふるさと広場の来場者に船で遊覧しながら印旛沼について学ぶ機会を広く提供することができるようになり(乗船者総数は1919人)、佐倉ふるさと広場の環境拠点としての魅力向上に一定の効果があつたものと考えられる。	舟運事業に加えて、平成29年度以降にサンセットヒルズ下の観光農園の整備や、地方創生拠点整備交付金を活用した佐倉ふるさと広場管理棟(佐蘭花)の機能強化事業を行うことにより、印旛沼周辺地域の回遊性の向上等を図る。		
	⑤観光振興に関する調査及び事業の実施	北総観光連盟や成田空港周辺地域国際観光推進協議会などの各種協議会の構成自治体や経済団体と情報交換を行うとともに、広域的な観光マップの作成や、県が実施する海外プロモーション事業やインバウンド事業に参加することにより、観光振興に係る調査を行った。	佐倉市の観光施設及びイベントへの入込客数はここ数年増加傾向にあることから、各施設やイベントの知名度が向上してきたものと考えられる。また、外国人観光客も増加傾向にあることから、今後2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて更なる広報活動の強化が必要と考えられる。	日本遺産の構成市と連携を図りながら、事業の立案・実施を行うとともに、県が進める訪日教育旅行の受入等インバウンド事業に参加することにより、外国人観光客の誘致拡大を図る。		
⑥佐倉にゆかりのあるアニメ・漫画等を活用した観光客増加策の実施	新規事業の実現に向けて、アニメ制作会社等関係者と協議を実施。	新規事業の実現に向けて、アニメ制作会社等関係者と協議を実施。	新規事業についてはアニメ制作会社等関係者と協議を継続中。	アニメ関連事業を独自に実施している鉄道事業者や、アニメ制作会社等関係者等と連携を図りながら、新たな事業実施に向けた検討を行う。		
【懇話会からの提案】 もっと、こんなふうにしてみたら？	・日本遺産の北総4都市江戸紀行があるが、この4都市の中でも佐倉市が一番、東京に近い立地である。このアドバンテージを活かして、観光施策も点から面に広がるようリーダーシップを取って頑張っていきたい。	・アニメを活用したまちづくりを、費用等の関係もあるが検討してはどうか。佐倉にゆかりのある作家の作品の誘致に結びつけられたいか。また、マルシェ鹿島などの施設に、子供も大人も喜べるようなものをアニメ館みたいな雰囲気を取り入れののも一案である。 ・花を活用したイベントの充実として、「チュエーリップフエスタ」は、多地域に同様のイベントがあるため、観光入込客数の増加に向けて差別化する要素が重要ではないか。既存のメディアに加えて、若年層への広報効果があるソーシャルメディアをうまく利用してほしい。				

①-③ 歴史文化遺産を活かした来訪者の増加					文化課	
					産業振興課/公園緑地課	
					関連課	
佐倉市はこんなこと やっています	なぜやるの？	どんなことをするの？	こんなことやっています	28年度の取組状況(Do)	実施計画額(千円)	
					平成28年度	平成29年度
					60,826	76,110
						50,908
						154,985
第4次佐倉市総合計画では人口減少対策として、「定住人口の維持」「交流人口の増加」が将来都市像を描くための前提として提示され、「定住・交流促進」への積極的な取組が必要となったため。						
・本市は、近隣市町の中でも、歴史文化遺産が豊富に存在しています。これらを資産として活用し周知するイベントなどを行い、佐倉市の知名度を高めるとともに、交流人口の増加を図ります。						
もっと具体的に！			こんなことやっています	28年度の取組状況(Do)	自己評価(Check)	29年度に改善したいこと(Action)
			①歴史文化遺産を回遊できる事業の実施、誘致及び支援(新町周辺等)	①さくら庭園で音楽イベント(夜間公開)を1回、ヨガイベントを2回開催 ②旧堀田邸御月の夕べを開催(夜間公開・コンサート) ③子供向け散策イベント「にゃんさんぽ」を開催 ④ぶらり佐倉検定を2回開催(うち1回は歴博が会場) ⑤時代まつり(産業振興課)に併せて甲冑武者会(1回)を開催 ⑥武家屋敷甲冑武者会の開催数増(平成27年度1回→平成28年度3回) ⑦にわのわちばアート&クラフト(実行委員会主催)、城下町きものさんぽ(城下町商店会主催)を支援 ⑧ドラマ・CM等の撮影支援 ⑨鉄道会社等のイベントを支援	・IKPIが目標値を下回る結果となったが、撮影使用料収入が前年度比で約2.2倍と収入総額は前年度を上回り、本事業が非常に効果的であったと考えられる。 ・文化財施設と意外なものとの組み合わせイベントを開催することにより、今まで来館したことのない人々に周知することができたと考えられる。 ・これからの佐倉市を担う子供たちが楽しみながら、文化財施設を回遊できるイベントを開発できた。	
			②HP・リーフレット等を通じた「歴史のまち佐倉」の情報発信	①平成28年4月25日に日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」の城下町佐倉として認定され、4市と県で設立した日本遺産活用協議会が文化庁補助事業として公式HP・アプリ、ガイドブック・リーフレットの作成・公開を行った。 ②スカイツリー、成田山、酒々井千葉氏まつりにおいて、船・甲冑体験のシティイーブプロモーションを行った。	・IKPIが目標値を下回る結果となったが、概ね達成できており、日本遺産認定も受け、積極的なPRにも努めるなど、本事業が非常に効果的であったと考えられる。	情報発信の手法によりイメージアップの効果に違いが見られることから、情報発信の手法について検討を行い、HP等に反映していきたい。

佐倉市はこんなこと やっています	①-(4) 都市と農村の交流促進						主な担当課		農政課		
							関連課		-		
なぜやるの？	人口の減少、高齢化の進展等により農山村の活力が低下していることから、都市と地域の地域間交流を促進することにより、地域の活性化を推進するため。						実施計画額(千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
								38,720	571,160	133,496	22,302
どんなことをするの？	・都市住民が、自然とふれあいながら農業体験を楽しむ機会を提供します。										
もっと具体的に！	こんなことやってます	28年度の取組状況 (Do)	自己評価 (Check)	29年度に改善したいこと (Action)							
	①農業体験農園等都市と農村の交流促進	飯野台ふれあい農園の利用を促進するため、市内高齢者施設及び幼稚園・保育園等に案内文の送付をし、農園に係る情報発信を行った。	平成28年度は農園利用が855区画のうち15区画(利用率17.6%)、総面積3,390㎡のうち800㎡(利用率23.6%)にとどまっていたため、情報発信が十分でなかったものと考えられる。	・農園利用率の向上を図るため、情報発信の手法等(情報発信を行うイベント、頻度、パンフレット等)について見直しを行う。 ・農業未経験者であっても農園利用を行いやすい環境の整備(農業者による指導、農機具の貸出等)について検討を行う。							
	②農業や農地を活かした交流活動の推進	・佐倉草ぶえの丘のホームページやパンフレットに加え、季節ごとのイベントチラシ(年4回発行)により情報発信を行った。 ・佐倉草ぶえの丘において、地元農家と連携して農産物(米、ジャガイモ、落花生、サツマイモ、餅つき)を生産(作付け、育成、収穫)する過程を学ぶ体験型イベントを開催した(参加者数約1.6万人)。	情報発信や体験型イベントの開催等により、佐倉草ぶえの丘の利用者数が初期値と比較して13.3万人と増加しており、一定の効果があったものと考えられる。	・今後も引き続き、情報発信を行う。 ・体験型イベントの参加者に対するアンケート調査等を行い、イベントの見直しについて検討を行う。なお、地元農家の高齢化が進んでいることから、今後とも継続的にイベントを実施していただける体制づくりについて検討を行う。							
【懇話会からの提案】 もっと、こんなふうにし てみたら？	・草ぶえの丘と飯野台ふれあい農園のチラシは、非常に見やすくなり、おしゃれになった。これにより利用者増えたのではないか。 ・ほとんどの幼稚園保育園でサツマイモ植えやお芋パーティーをやっている。飯野台ふれあい農園がそばにある幼稚園・保育園はあまりないので、ターゲットを絞って声掛けすると利用のニーズはあるのではないかと。一方で、借りた幼稚園や施設の先生が一年を通して農園を管理するのは大変なので、草取りを有料で手伝うなど研究してほしい。 ・草ぶえの丘は、印旛沼からの道路の建設が10年程度かかる見込みであり、アクセスが便利とは言えない。また、飯野台ふれあい農園は駐車場がある草ぶえの丘から離れており、道路に面しておらず、車や観光バスでは入っていけない。両施設のアクセス面の課題を克服する手段を考えてほしい。 ・草ぶえの丘は非常にローカルな作りで楽しい。草ぶえの丘は今年度11月から休園になるが、休園により、耐震化補強・農産物の加工場所と調理室の新設、直売所を大規模改修して道路に面したところに作る。地元と協力して、活性化を推進してほしい。										

佐倉市はこんなことやっています	②-(1) 若い世代の経済的安定と結婚支援						主な担当課		自治人権推進課
							関連課	産業振興課	
なぜやるの？	生活が多様化し市民からの相談・要望が増加する中、昭和51年度に結婚相談を開設した。また、市内の農業従事者や事業者の後継者対策及び市の活性化を目的とし、平成23年度に佐倉市婚活支援協議会を結成し、結婚相談とは違う支援の形として婚活イベントを行っている。 雇用環境が厳しさを増す中、若者の就業を支援するため、県が運営する「らば若者キャリアセンター（ジョブカフェらば）」との連携により、若者の能力向上・就職促進を図るセミナー等を開催することとなった。	実施計画額(千円)	525	525	平成29年度	平成30年度	平成31年度	525	
どんなことをするの？	・若い世代の結婚の希望を叶えるため、その出会いの場の確保や経済的安定のための就業支援の取り組みを進めます。								
もっと具体的に！	こんなことやっています	28年度の取組状況(Do)	自己評価(Check)			29年度に改善したいこと(Action)			
	①若者に対する結婚相談や出会い・結婚に向けた支援	・結婚相談を毎月3回実施した。 (相談数合計687件、お見合い合計21件、成婚報告合計3組(28年度)) ・佐倉市婚活支援協議会事務局として、婚活イベントを4回実施した。 (参加者合計169人、成立カップル数合計25組、成婚報告合計1組(28年度))	・婚活イベントでは、27年度回答時から成婚報告が2組増えた。 ・結婚相談においては平成28年度中に3組の成婚報告があった。長年に渡り継続して取り組んでいる成果と判断している。 ・一方、同事業とも参加回数は多くても成婚まで至らない人がいるが、要因は不明である。			より多くの方が成婚されるよう、事業の周知やイベント・募集人数の見直し、利用者のニーズに合わせたイベント・支援を実施し、参加者増に努める。			
	②若者に対する職業相談やセミナーの開催	ジョブカフェちゅらば・八街市・富里市・酒々井町との共催で、「就活基礎セミナーin八街」を開催した。 ・参加者数6人(うち佐倉市1人) ・セミナーの後に行われる個別相談は、セミナー参加者のうち2人が利用した。	・阿年近隣市町で共催をしており、今年度は会場ではなかったことから、佐倉市民の参加は1名に留まった。 ・近年、雇用情勢はゆるやかに回復していることから、周知不足だけではなく、受講者のニーズの変化である可能性がある。 ・参加者アンケートによると、セミナー参加者の満足度は高かった。			セミナー参加者の満足度は高く、内容は充実していると判断できることから、より多くの方に参加していただくように、さまざまな媒体を活用して広く周知に努める。			
【懇話会からの提案】 もっと、こんなふうにしてみたら？	・婚活イベントは参加者169人で成婚1組という実績なのは寂しい。会員専用ホームページや記念品贈呈で成婚報告ももらえるよう努力しているようであるが、ビッグデータを活用して成婚率を上げるなど民間の結婚相談所の手法も少し参考にしてはどうか。 ・結婚相談事業はきめ細やかな対応で評判がよく、成婚率も継続的にある。婚活イベントには男性は定員オーバーで連続参加できない場合もある一方で、女性性は定員割れしている。両事業で補完的に対応できるよう進めてほしい。 ・若い世代の経済的安定についてセミナーの開催など実施しているが、就職したかどうかフォローしてはどうか。 ・婚活支援事業を結婚を誘導することが主目的だが、市の魅力発信も一つの目的とらえ、市外・近県からの参加者も増えている現状で、佐倉の観光名所を併せてアピールしているのは良い取組みであり、評価できる。 ・婚活支援事業は、佐倉に住むことを条件にする、又は、住居の提供までではないが、何らかの利益を持たせながら、数字を上げることが必要。市外在住者へのサービスは批判もあるの								

佐倉市はこんなことやっています		②-② 出産や子育てに対する支援					主な担当課		
							関連課	子育て支援課 児童青少年課	
なぜやるの？	人口減少という大きな課題を解決するために、子育て世代を誘引し、定住を促すことが必要であることから、積極的な子育て支援の取組が求められているため。							平成29年度	平成30年度
どんなことをするの？	・出生率を高め、人口減少を緩やかなものとしていくため、妊娠・出産・育児の各期に応じ、母子の健康保持に必要な支援を行い切れ目のない支援を実施します。 ・「子育てしやすいまち」を佐倉市の特徴とするため、子育て世代包括支援センターを設置し、子育て期に係る総合相談を実施します。 ・少子化の要因の一つである子育てに係る経済的負担の軽減を図るため、適切な支援を推進します。							平成28年度	平成29年度
		実施計画額(千円)		446,887		337,350		271,278	266,443
							29年度に改善したいこと(Action)		
もっと具体的に！		28年度の取組状況(Do)		自己評価(Check)					
【電話金からの提案】 もっと、こんなふうにして みたら？		こんなことやっています	①子ども総合窓口の設置	◆子どもたちが遊ぶ場所をフロアの中心に配置したこと、保護者が手続をしている間、子どもたちを安全に見守ることができる。 ◆子どもに関する手続はワンストップで実施できるようになり、利用者の利便性向上につながる。 ◆平成27年度の保健師による妊婦面接は、34.8%(377件/1,082件)であったのに対し、平成28年度は98.9%(1,043件/1,054件)と大幅に上昇した。 ◆利用者からは、こんなに話を聞いてもらえるとは思ってなかった。話を聞いてもらって、安心した。リーフレットがまとめられていて見やすい。休日に開いている窓口があつてよかった。ひとりで抱え込んでしまう人もいるから、必要な取り組みですね、など、好評。	◆来庁者からは「窓口が明るくなった」という声をいただいている。 ◆子どもたちが遊ぶ場所をフロアの中心に配置したこと、保護者が手続をしている間、子どもたちを安全に見守ることができる。 ◆子どもに関する手続はワンストップで実施できるようになり、利用者の利便性向上につながる。 ◆平成27年度の保健師による妊婦面接は、34.8%(377件/1,082件)であったのに対し、平成28年度は98.9%(1,043件/1,054件)と大幅に上昇した。 ◆利用者からは、こんなに話を聞いてもらえるとは思ってなかった。話を聞いてもらって、安心した。リーフレットがまとめられていて見やすい。休日に開いている窓口があつてよかった。ひとりで抱え込んでしまう人もいるから、必要な取り組みですね、など、好評。	◆来庁者にアンケートを実施するなどして、より利用しやすい窓口をめざし改善していく必要がある。 ◆教育委員会との連携についても協議していく必要がある。			
		②子育て世代に対する包括的支援の実施	◆平成28年4月から子育て支援課、健康管理センター、西部及び南部保健センターの計4箇所に子育て世代包括支援センターを開設し、母子健康手帳交付時に全ての妊婦への面接に努めた。	◆平成27年度による妊婦面接は、34.8%(377件/1,082件)であったのに対し、平成28年度は98.9%(1,043件/1,054件)と大幅に上昇した。 ◆利用者からは、こんなに話を聞いてもらえるとは思ってなかった。話を聞いてもらって、安心した。リーフレットがまとめられていて見やすい。休日に開いている窓口があつてよかった。ひとりで抱え込んでしまう人もいるから、必要な取り組みですね、など、好評。	◆妊婦全員面接の実施により継続支援ケースが増加していることから、地区担当保健師の負担が増加しており、継続的かつ確実な支援を実施していくには、支援に係る保健師のマンパワー確保(増員)が急務である。				
		③子育てコンシェルジュの充実	◆子育て支援課子育てコンシェルジュによる相談件数305件、吉見光の子モンテッソーリ子どもの家コンシェルジュテレサによる相談件数は3,210件であった。	◆吉見光の子モンテッソーリ子どもの家コンシェルジュテレサにおいては、児童センターや地域子育て支援拠点などに出向き相談に対応するアウトリーチ活動に積極的に取り組んでいる。 ◆子育て世代包括支援センターの開設により、出産時の上の子の預かめや、職場復帰を見据えるの保育園入園の相談等が増え、子育て支援課コンシェルジュによる実績も増加したものと考える。	◆子育てコンシェルジュをより一層ご利用いただくため、コンシェルジュの認知度を高めるための取り組みが必要がある。				
		④子育て世代に対する経済的負担の軽減(児童手当や医療費助成、幼稚園就園奨励費)	◆児童手当を対象者数234,492人に支給した。 ◆0歳から中学3年生までの児童を対象に通院・入院医療費の助成を実施した。(受給対象者数22,041人) ◆幼稚園就園奨励費を市内私立幼稚園に補助金として交付した。(補助対象者数2,163人)	◆児童手当や医療費助成、幼稚園就園奨励費の交付により、子育て世代における経済的負担を軽減することができた。	◆国具の方向性や他市の状況などを踏まえて、子育て世代の経済的負担の軽減策について引き続き検討していく。				
		⑤子育て支援等に関する情報提供の充実	◆子育て支援ガイドブック10,000部発行 ◆子育て支援課独自に「子育て支援特集号」4,000部発行 ◆市のウェブサイトへの掲載	◆ガイドブック、ウェブサイトや広報紙など、様々な媒体を活用して情報を発信することができた。	◆市のウェブサイトから子育て情報を入手する際に、階層が深く見つけにくいと言った課題があり改良が必要である。				
		・子育て支援ハンドブックがコンパクトにまとまっており見やすく良い取り組み。一方、市HPの子育て支援情報ページは知りたい情報までの階層が深く検索しにくい。⇒委員意見を受け、HPのトップ画面に子育て支援情報ヘッダーを特設済み。							

【電話金からの提案】 もっと、こんなふうにして みたら？	・子育てに関する相談を受ける体制として子育てコンシェルジュ制度を整えており、良い取り組み。佐倉市では社会福祉士等の資格者を複数名配置し、保育園の入所関係だけでなく幅広い相談を受けられる体制を、積極的に外部に出張して相談を受けられる体制を構築したこと、実績値が大幅に増加など。 ・母子健康手帳の交付対象者全てに保健師が対面で説明しているとのことだが、併せてパソコン画面で案内しながらの子育て情報の説明もできればさらに良いと考える。
------------------------------------	---

佐倉市はこんなことやっています		②-(3) 安心して子育てできる地域づくり					主な担当課		子育て支援課	
なぜやるの？		安心して子育てできる地域づくりが不可欠であるため。		実施計画額(千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	健康増進課・社会教育課
				169,088		173,446	176,893	178,003		
どんなことをするの？		いざというときでも安心して子育てできる地域づくりのため、地元医師会、歯科医師会、歯科医師会、市内の病院と連携し、休日当番医、休日夜間急病診療所及び小児初期急病診療所の救急医療体制の維持・充実を図ります。 ・災害時における妊産婦・乳幼児のための支援物資の備蓄を進めます。 ・子育てを社会全体で行っていく必要性について意識啓発を図るとともに、ファミリーサポートセンター事業などにより、地域における子育ての相互援助を支援します。								
		こんなことやっています	28年度の取組状況(Do)	自己評価(Check)		29年度に改善したいこと(Action)				
もっと具体的に！		①小児初期急病診療所の維持・充実	◆一般医療機関が診療を行っていない夜間及び休日において、小児内科の一次救急医療機関として診療業務を実施。 ◆二次医療機関との役割分担および連携体制の構築。	年間を通して、夜間及び休日の診療を休まずに行い、地域の子供たちが安心して医療を受けられる体制を整備することで、安心して子育てできるまちづくりにつなげることができた。		現在の診療体制を維持していくため、施設設備の不具合の改善等に取り組み、安心して診療を受けられる環境を整備する。また、医師不足解消のための具体的な取り組みについて、医師会と協議の上進めていく。				
		②災害時における妊産婦・乳幼児のための支援物資の備蓄	◆助産師会の助産師と協議を行い、災害時に助産師が使用する資機材を購入した。(平成27年度) ・胎児用聴診器、新生児用聴診器、簡易ベビーベッド等備品 ・分娩キッド、母乳ビン、ガーゼ等医薬材料 ・助産師名入れビブス、ヘルメット等消耗品	災害時に助産師が使用する資機材を備蓄しておくことで、災害時の助産への安心感を高めることができた。		助産師会の助産師とともに在庫や備品の動作確認を実施する等、引き続き適正管理に努めます。				
		③ファミリーサポートセンター事業の実施	◆1,438組の親子に対し、4,187回の支援活動を行った。 ◆利用会員入会説明会の開催(12回、参加者数111人) ◆提供会員への研修会の開催(24回、参加者数81人)	サービズ利用希望者が参加しやすいよう、地域の身近な会場で説明会を開催、その結果、利用会員は132人増加、提供会員の説明会も同様に、市内の地域で満遍なく実施することで参加を促したが、15人の増加にとどまった。両方会員は6人増加し、全体で153人の増加となった。		依然として、利用会員数に比べ提供会員が少ない。活動に支障はないものの、急な依頼時など、対応に急遽する場面も出てきていることから、ある程度の余裕ある体制とするため、提供会員の更なる増員が必要である。引き続き、当該事業の周知を図り、提供会員への登録を募っていく。				
【懇話会からの提案】 もっと、こんなふうにしてみたら？		・ファミリーサポートセンター事業については、提供会員と利用会員のバランスが悪い。広報の記事に気づかない人が多い。かなりの回数の説明会をやっている点でその点は評価するが、市民カレッジやコミュニティカレッジの場でもっと提供会員への呼びかけしてもよいのではないかと。グループネット296が作ったビデオが非常に分かりやすく評判が良かった。 ・ファミリーサポートセンターについては、利用会員が提供会員に1回700円を支払うが、この金額を上げることができないか。あるいは市が提供会員を増やすために補助することはできないか。有償ボランティアなので最低賃金以上である必要はないにしても、積極的にやってみようと思う人を増やす方法としては一つの方法ではないかと思う。 ・小児救急は子どもがいろいろ家庭にとっては重要である。小児初期急病診療所は印旛管内9市町でやっているものではないが、小児科医の確保について、予算も含め、市としても維持・充実に努めてほしい。 ・助産師災害活動用必要物品の確保については市内の3か所の保健センターに保管している。充足率100%とあるが、使用期限が過ぎてしまうのはもったいない。被災地に送り出すとか、近隣で有事の際に提供するなど、使用期限のあるうちに使ってしまう方法も検討されたい。								

佐倉市はこんなこと やっています	②-(4) 地域の特色を活かした教育の推進				主な担当課		指導課
			関連課				教育センター
なぜやるの？	実施計画額(千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
		44,561	54,645	11,814	8,380		
どんなことをするの？	・郷土・佐倉に対する誇りや愛着を育むことを目的とする「佐倉学」を普及・定着させ、市民の転出を抑制することにも寄与します。 ・献立に地場産物や佐倉の歴史にちなんだメニューを取り入れるなど、学校給食を通して、家庭・地域と連携をはかりながら食育を推進します。						
もっと具体的に！	こんなことやっています	28年度の取組状況(Do)	自己評価(Check)	29年度に改善したいこと(Action)			
	①「佐倉学」の推進	①各小学校の6年児童に改訂版佐倉学副読本「ふるさと佐倉の歴史」を配付した。 ②市外からの異動教員や新規採用教員等に、佐倉学研修会を実施した。 ③佐倉学の研究モデル校を指定し、研究実践を進めた。	・KPI(教育課程に位置づけて佐倉学に取り組んでいる市内小中学校の率)は100%を維持することができた。 ・佐倉学を初めて指導する教員が、佐倉の先覚者や、地域の遺跡等、佐倉学の基礎・基本について理解を深めることができた。 ・社会科の学習や総合的な学習、道徳の時間を通して、佐倉学の学習を行うことができた。	・市内からの異動者と新規採用教員のために、佐倉学研修会を継続していく。 ・次期学習指導要領の内容に合わせた佐倉学の取組について研究モデル校と連携を深めていく。 ・佐倉学検定を実施し、佐倉学に対する意識を高めるとともに市民に広く広報し、佐倉学への理解を深める。			
	②自校式給食を活用した食育の推進	①津田仙ゆかりのメニューを全校(34校)で実施した。 ②佐倉市教育の日(11月16日)を中心に、佐倉・城下町400年記念メニュー「お殿様献立」を全校(34校)で実施した。	・KPI(自校式給食を活用して食育を推進している市内小中学校の率)は100%を維持することができた。 ・津田仙ゆかりのメニューや、お殿様献立の実施等により、地域の食文化への理解を深めることができた。	・クララ・ホイットニーの西洋料理を取り入れた献立を全校(34校)で実施した。地域の食文化への理解を更に深めるよう、継続して実施していく。			
	・佐倉学検定は大人向け、佐倉市のガイドボランティア向けの検定もあっていいのではないかと。 ・佐倉学を教育課程で教えるのは郷土愛の醸成につながるがあるので、ますます充実させてもらいたい。 ・歴博は佐倉から日本に誇る大きな教育機関であり、連携を推進してもらいたい。子どもたちや教員の歴博での見学・研究・職場体験は、県外からも来ているのだから、佐倉市内でもさらに推進してもらいたい。それで興味を持ち、学校のカリキュラム以外でも別途見学に行くような取り組みを図ってほしい。 ・自校方式で美味しいことや食器へのこだわりなど、佐倉市の給食教育は優れている。津田仙メニューやお殿様メニュー、クララ・ホイットニーの西洋料理など、佐倉学に基づいた郷土色のある給食はもっと広報すべきである。また、子どもたちが郷土の歴史を意欲的に学習できるように、食事の際に学習を取り込んでほしい。 ・佐倉の歴史を大人でも知らない人が多い。佐倉にすばらしい人材があっても、断片的に紹介しても仕方がない。「佐倉館」のような郷土を紹介する施設を作り、佐倉の特長をもっと説明できるようにすべきである。美術館や歴博と併せて見学できるようにすれば、それが佐倉市の宣伝になる。敷居が高くない、誰でも入れるレベルの施設の設置を検討してほしい。 ・佐倉図書館建設においては、郷土資料館的な機能を含め、子どもたちが目で見て記憶に残せるような施設にしてほしい。						
【懇話会からの提案】 もっと、こんなふうにし てみたら？							